

赤磐市スポーツ推進計画（素案）



赤磐市教育委員会

生涯にわたる健やかな体の育成とスポーツライフの振興

スポーツは、今や人類の文化の一部として認識されています。心身の健全な発達はもちろん、健康や体力の保持と増進、爽快感や達成感といった精神的な充足感を得ることができます。また、人と人とのコミュニケーションをより豊かにし、感動や喜びを味わうことで、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある社会の形成に寄与しています。

本市を拠点に活動しているバレーボール岡山シーガルズの活躍や東京 2020 オリンピックを契機にホッケー競技を核とした国際交流の活動が定着しています。実際に身体を動かすことに加え、観戦や応援、運営のボランティアを含むスポーツへ関わりの機会が増え、結果として社会全体の活力を生み出すことにつながっています。

今回策定した「第3次赤磐市スポーツ推進計画」では、このような現状の変化を考慮しつつ、市民の誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができ、且つ多角的にスポーツに関わることで、生涯にわたって心身とも健康で、豊かな生活を実現していくことを目指しています。

最後に本計画の策定にあたり、赤磐市スポーツ推進計画策定委員の皆様をはじめ、多くの方々からご意見やご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

令和7（2025）年 月

赤磐市長 前田 正之

写真

目 次

1 計画の概要	1
(1) 計画策定の趣旨	1
(2) 計画の位置づけ	2
(3) 計画の期間	2
(4) 計画の構成	2
2 現状と課題	3
(1) ライフステージに応じた運動・スポーツ活動	3
①地域と連携した運動・スポーツ活動	
②スポーツ教室等の開催状況	
③スポーツ施設機能の充実と活用	
④学校開放の推進	
(2) 学校における体育・スポーツ活動	10
(3) 競技スポーツ活動	12
(4) 東京オリンピック・パラリンピック	
「スポーツ・レガシー」の継承・発展	12
3 計画の基本理念	13
4 計画の体系	14
5 数値目標	15
6 基本施策	16
(1) 文化としてのスポーツを推進するための組織づくり	16
① 市の組織改革	
② 協力団体・関係団体との連携体制づくり	

- (2) スポーツライフを振興するための環境づくり 16
 - ① ボランティアの育成・活躍の場づくり
 - ② スポーツ指導者の育成・資質向上
 - ③ 施設の整備と効率的な運営
 - ④ 情報提供の充実と広報活動の推進
- (3) 健やかな心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進 17
 - ① 児童・生徒のスポーツ活動の充実
 - ② 全世代のスポーツ活動の充実
 - ③ 高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の充実
 - ④ 生涯スポーツ推進のためのイベントの企画と運営
 - ⑤ スポーツ関係団体との連携
- (4) ホストタウン交流や地域との連携を生かしたスポーツ交流 19
 - ① 国際交流による地域の活性化と国際感覚の醸成
 - ② 合宿等の誘致による横断的活動の推進
 - ③ バレーボール競技、ホッケー競技を核としたハイレベル大会誘致
 - ④ ハイレベル技術に触れる機会の充実
- (5) 競技スポーツの推進の競技力の向上 20
 - ① 優秀選手・オリンピック・パラリンピアン、アスリートの育成
 - ② 指導体制の強化
 - ③ スポーツ指導者の育成・資質向上
 - ④ スポーツ関係団体との連携

7 計画の推進及び進行管理 21

- (1) 計画の推進 21
 - ① 市民の理解と協力
 - ② 市内スポーツ関係団体との連携
 - ③ 岡山県及び(財)岡山県スポーツ協会等との連携
 - ④ 学校・家庭・地域の連携
 - ⑤ 行政内部の連携
 - ⑥ 計画推進の財政措置
- (2) 進行管理 21

8 資料編 22

- (1) 「運動・スポーツに関する市民意識調査」結果 22
- (2) 体育施設一覧 46
- (3) 赤磐市スポーツ推進計画策定委員名簿 49

1 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

スポーツは、今や人類の文化の一部として認識されています。心身の健全な発達はもちろん、健康や体力の保持と増進、爽快感や達成感といった精神的な充足感を得ることができます。また、人と人とのコミュニケーションをより豊かにし、感動や喜びを味わうことで、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある社会の形成に寄与しています。

国では、平成 22 年 8 月に新たなスポーツ文化の確立を目指し、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」と「連携・協働の推進」を基本的な考え方とするスポーツ立国戦略を策定し、概ね 10 年間で実施すべきスポーツ施策の基本的な方向を示しました。

平成 23 年 6 月には、「スポーツ振興法」を全面改正した「スポーツ基本法」が公布され、同年 8 月に国や地方公共団体の責務やスポーツ団体の努力等を定める「スポーツ基本法」が施行されました。この基本法に基づく「スポーツ基本計画」の策定により、スポーツを通じて目指すべき社会の姿を「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」とし、今後 10 年間を見通したスポーツ推進の基本方針や施策を総合的かつ計画的に推進することが必要であるとされています。

さらに、令和 4 年 3 月 25 日に策定された「第 3 期スポーツ基本計画」は、今後のスポーツの在り方を見据え、令和 4 年度（2022 年度）から令和 8 年度（2026 年度）までの 5 年間で国等が取り組むべき施策や目標等を定めた計画となっています。東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京大会）のスポーツ・レガシーの発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策が以下のとおり具体的に示されています。

「新たな 3 つの視点」

- ① スポーツを「つくる／はぐくむ」
- ② 「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる
- ③ スポーツに「誰もがアクセス」できる

また、岡山県では、これまで取り組んできた「岡山県スポーツ推進計画」に基づいた取り組みの成果や社会環境の変化を踏まえて、令和 5 年に「第 2 次岡山県スポーツ推進計画」が策定されました。

赤磐市を拠点に活動している岡山シーガルズの活躍や、ホッケー競技を核として実施している全国大会や国際交流の活動が定着しており、観戦や応援、運営のボランティアを含めて、スポーツへの様々な関わりの機会が増えてきています。このような現状の変化を考慮しつつ、市民の誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しみ、且つ多角的にスポーツに関わることで、生涯にわたって心身ともに健康で、豊かな生活を実現していくことを目指して、「第 3 次赤磐市スポーツ推進計画」を策定します。

(2) 計画の位置づけ

スポーツ基本法第 10 条に規定された「地方スポーツ推進計画」であるとともに、「岡山県スポーツ推進計画」との整合性をもちながら、「赤磐市総合計画」に掲げる重点戦略Ⅱこども「子育て教育環境が整ったまち」、Ⅲしくみ「住んでいて安心安全なまち」のスポーツ振興に関する個別事業計画として位置づけるものです。

(3) 計画の期間

本計画は、令和 7 年度から令和 11 年度までの 5 年間を基本とします。

また、計画の期間中であっても進捗状況や社会情勢等の変化に応じて、中間見直しを行う場合があります。

(4) 計画の構成

この計画は、「現状と課題」「基本理念」「基本施策」で構成しています。

はじめに「現状と課題」でスポーツを取りまく社会環境及び赤磐市の現状を踏まえつつ、市民意識調査の結果により、市におけるスポーツに関する課題を整理しています。

そして、「基本理念」で計画推進における基本となる考え方を示すとともに、「基本施策」でスポーツ推進に向けた基本的な推進方法を示しています。

2 現状と課題

(1) ライフステージに応じた運動・スポーツ活動

令和2(2020)年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動は制限され、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響が生じました。さらに大会やスポーツを核にした交流イベントも中止となり、閉塞感が広がりました。

現在は、スポーツイベントや行事が復活し、日常のスポーツ活動も通常の活動を再開していますが、アンケートの結果からはスポーツイベントへの参加やスポーツ活動全般への参加意欲の低下が見受けられます。高齢者は、自身の健康や生きがい作りの活動として、それぞれの地域でスポーツ活動を行う傾向にありますが、幼児期のスポーツ活動は、幼稚園、保育園やこども園で、身近な大人の深い愛情のもとに体を動かす気持ちよさを体験しているにとどまっています。意識調査の結果から考察すると、青年期のスポーツ活動参加は中高校生期の経験に左右され、仕事との両立が困難であることから、活動が低調になっている傾向がみられます。

また、子どもの数の減少によって地域のスポーツ団体が成立しにくくなり、中学校の部活動の廃部が増加するなど、スポーツを身近で行う環境が厳しくなっています。

① 地域と連携した運動・スポーツ活動

地域のスポーツ関係団体は、現在18名の委員で活動している赤磐市スポーツ推進委員会のほか、21の加盟競技団体で構成された赤磐市スポーツ協会や6種目11単位団からなるスポーツ少年団があります。このうち、スポーツ推進委員会、スポーツ協会やスポーツ少年団の事務局を教育委員会が担っていますが、今後は活性化を図るために、それぞれが独立して自主運営を目指していくことが求められています。

また、中学校部活動の地域連携・展開に向けた地域との連携の在り方を模索していくことも重要になってきました。今後は、連携協定を結んでいる関係機関との連携はもちろんのこと、スポーツ関係団体のみならず、企業や自治会等を含めた団体等との幅広い連携を視野に入れた取組を進める必要があります。

表 社会体育関係委員（令和7年度）

職 名	委員数	任 期
スポーツ推進委員	18 人	2 年

表 社会体育関係団体（令和7年度）種目にある（ ）内はR7.4.1現在の会員数

赤磐市スポーツ協会加盟競技種目（加盟競技団体：21協会 人数：2,116人）
・軟式野球(104) ・バレーボール(280) ・テニス(106) ・ソフトテニス(55) ・卓球(265) ・柔道(132) ・バドミントン(210) ・射撃(61) ・ゴルフ(204) ・グラウンド・ゴルフ(227) ・サッカー(120) ・中国武術太極拳気功(15) ・綱引き(10) ・スキー(9) ・合気道(33) ・少林寺拳法(15) ・ホッケー(70) ・バスケットボール(193) ・ペタンク(35) (休会中)・陸上競技 ・剣道
赤磐市スポーツ少年団活動種目（登録団体11団）
・陸上競技（1団）・軟式野球（3団）・バレーボール（2団）・剣道（2団） ・バスケットボール（1団）・サッカー（1団）・硬式テニス（1団）
赤磐市剣道連盟（81）
赤磐柔道連盟（130）

表 スポーツ少年団登録人数の推移

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
総団員数	282	275	270	251	243	286	295	278
軟式野球	96	94	80	88	76	61	80	89
ソフトボール	38	50	43	34	28	－	－	－
バレーボール	25	17	30	20	21	22	15	10
剣道	34	35	46	38	38	40	34	31
バスケットボール	51	49	43	43	50	44	60	49
キッズ・ニュースポーツ、陸上	38	30	28	37	30	42	36	21
サッカー	－	－	－	－	－	33	28	24
硬式テニス	－	－	－	－	－	31	42	54
小学生加入率 ※1	11.70%	11.49%	11.19%	10.38%	10.05%	11.67%	11.95%	11.32%
指導者数 ※2	163	166	168	69	63	49	44	31
有資格指導者数 ※3	76	79	85					

※1 小学生加入率＝市内小学生登録数÷市立小学生児童数

※2 R2年度から、有資格者のみ指導者としてカウントするよう指示があったため極端に減少

※3 有資格者指導者：スタートコーチ（ジュニア・ユース）、スポーツコーチングリーダー、またはその他 JSP0 公認スポーツ指導者資格を所有する指導者のこと

※過去 8 年間のデータを掲載しています

※R4 以降ソフトボールの団体はなくなりました

※R4～ 吉井スポーツ少年団はソフトボールからサッカーに競技種目変更

※R4～ 新規で「あかいわテニスクラブスポーツ少年団」が加入

② スポーツ教室等の開催状況

親子や仲間であそびにスポーツを楽しむことを目的にした、各種教室やスポーツ・レクリエーション事業を企画し開催しています。市民意識調査の結果から、日常生活の中でスポーツ活動に親しむ割合を高めていくことが重要となっています。今後は、多様なニーズに対応し、運動習慣のきっかけづくりになるよう、新たなイベントの開催を計画するよりも、各種スポーツイベントに参加しやすくなる方策や、参加者数が増やすためのPRの工夫を進めていく必要があります。また、市スポーツ協会の各加盟競技団体や総合型地域スポーツクラブなどが主催する教室や事業との連携も重要です。

表 社会体育関係事業実績(令和 6 年度)

(ア) 生涯スポーツ事業の推進・指導者養成（全域）

名 称		延参加人数	
		令和元年度	令和6年度
教 室	スポーツ安全教室	中止	50 人
	小学生ドッジボール教室	23 人	未実施
	ファミリースポーツまつり	60 人	48 人
	ジュニアグラウンド・ゴルフ教室	120 人	21 人
大 会	磐梨旗争奪柔道大会	225 人 (43 チーム)	200 人 (33 チーム)
	小学生ドッジボール大会	216 人	37 人
	市民グラウンド・ゴルフ大会	279 人	未実施
イ ベ ント	スポレクフェステ赤磐	3,000 人	2,500 人
	チャレンジデー	28,945 人	－
	サッカー教室		13
	ホストタウン交流		1,630 人

(イ) 生涯スポーツ事業の推進（熊山）

名 称		延参加人数	
		令和元年度	令和 6 年度
教 室	ノルディックウォーク体験教室	26 人	28 人

(ウ) 生涯スポーツ事業の推進（吉井）

名 称		延参加人数	
		令和元年度	令和 6 年度
大 会	吉井つちのこ駅伝大会	176 人(30 チーム)	285 人(42 チーム)
	吉井地域ソフトボール大会	中止	-

③スポーツ施設機能の充実と活用

赤磐市のスポーツ施設には、体育館、屋内プール、野球場、テニスコート、多目的広場など多くの施設があります。さらに、トレーニングルームや多目的ホールなど体育館やその他の施設に付随した施設も整っています。部分的な施設修繕や照明 LED 化などを行ってはいますが、全体的に施設の老朽化が進んでいることや、市民のスポーツニーズの多様化などから、市民の要求を十分に満たしていない状況にあります。

今後、既存施設の改修や適切な管理、設備の更新やレベルアップを行い、競技スポーツや生涯スポーツの推進を目指すことが求められます。市民の運動・スポーツ習慣向上のため、気軽に使え、魅力あるスポーツ空間の整備が必要となります。

表 ふれあい公園利用状況

平成26年4月1日から赤磐ふれあい共同事業体による指定管理となった。

施 設 分 類		年 度	利用件数 (件)	利用人数 (人)	1か月平均 利用人数 (人)	1日平均 利用人数 (人)	開放日数 (日)
体育館	一般開放	R元	3, 216	60, 724	5, 060	199	305
		R6	2, 671	66, 494	5, 541	219	304
	無料開放	R元	—	1, 660	—	554	3
		R6	—	216	—	108	2
トレーニング ルーム	一般開放	R元	—	17, 792	1, 483	58	305
		R6	—	15, 261	1, 272	51	302
	無料開放	R元	—	235	—	79	3
		R6	—	112	—	56	2
屋 内 プール	一般開放	R元	—	40, 716	3, 393	133	305
		R6	—	27, 754	2, 313	97	287
	無料開放	R元	—	453	—	151	3
		R6	—	2, 950	—	1, 475	2
フィットネスコート		R元	1, 405	15, 527	1, 294	51	305
		R6	811	8, 705	725	29	304
多目的広場外		R元	502	28, 515	2, 376	93	305
		R6	186	29, 838	2, 487	98	304
合 計		R元	—	165, 622	13, 802	543	305
		R6	—	148, 052	12, 338	487	304

表 グラウンド・ゴルフ場利用状況

平成 25 年 4 月 1 日から公益社団法人赤磐市シルバー人材センターによる指定管理となった。

施 設 分 類	利用日数（日）		利用人数（人）		年間利用券の購入者数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
グラウンド・ゴルフ場	334	332	34,983	28,302	308	245

表 B & G 海洋センター利用状況

平成28年4月1日から吉井スポレククラブによる指定管理となった。

施 設 分 類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
プ ー ル	3,593	3,112	5,823	5,283
ア リ ー ナ	277	180	4,392	2,958
サブアリーナ	199	317	2,108	2,554
トレーニングルーム	1,869	955	1,869	955
ミーティングルーム	68	30	1,048	279

表 その他の体育施設利用状況

(ア) 山陽地域

平成 26 年 4 月 1 日から赤磐ふれあい共同事業体による指定管理となった。

施 設 分 類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
西山グラウンド	119	220	3,348	5,433

※ 定期利用団体利用種目・(団体数) 軟式野球(2), グラウンド・ゴルフ(2)

(イ) 吉井地域

吉井グラウンド、草生多目的広場、草生テニスコートは、平成28年4月1日から吉井スポレククラブによる指定管理となった。

施 設 分 類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和 6 年度	令和元年度	令和 6 年度
吉井グラウンド	108	158	4,231	6,836
草生多目的広場	59	54	4,587	3,916
草生テニスコート	226	155	3,436	2,930
吉井武道館	19	4	376	38

※ 定期利用団体利用種目・(団体数) ソフトテニス(2), 吉井スポレククラブ(2)

表 桜が丘運動公園利用状況

平成26年4月1日から赤磐ふれあい共同事業体による指定管理となった。

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
野球場	98	59	5,875	5,458
（内ナイター使用）	30	7	718	188
運動場	89	97	8,014	9,890
テニスコート （会員制）	令和元年度	市内 100 人	市外 6 人	計 106 人
	令和6年度	市内 89 人	市外 4 人	計 93 人

表 赤坂ファミリー公園利用状況

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
多目的広場	149	100	16,203	4,385
（内ナイター使用）	62	3	2,695	118
テニスコート	871	1,032	7,599	9,089
（内ナイター使用）	361	271	3,780	3,038
ふれあい公園		77		4,799

※ 定期利用団体利用種目・（団体数） テニス(6), グラウンド・ゴルフ (1)

表 赤坂体育センター利用状況

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
メインアリーナ	836	860	11,967	12,717
サブアリーナ	29	16	754	259
研修室	0	11	0	384

※ 定期利用団体利用種目・（団体数）
バレーボール(2), バドミントン(3), バスケットボール (1), ディスカン (1)

表 熊山運動公園利用状況

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
野球場	105	166	6,867	6,591
多目的広場	313	856	13,818	24,949
（内ナイター使用）	138	591	5,091	15,341
テニスコート	412	836	8,521	14,245
（内ナイター使用）	138	321	1,427	3,953

※ 定期利用団体利用種目・（団体数）
軟式野球(1), ホッケー(4), サッカー(1), テニス(12)

※ R1年度は、多目的広場改修工事のため施設閉鎖に伴い、利用者減となっています。

表 熊山武道館利用状況

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
熊山武道館	1,023	1,894	33,354	58,283

※ 定期利用団体利用種目・（団体数）
柔道(3), 剣道(1), 卓球(1), 空手(1), 合気道(1)

④学校開放の推進

市では、以前から学校施設開放事業に取り組んでおり、全ての小中学校体育館及びグラウンドが地域に開放され、広く市民に利用されています。現在の利用状況は、市南部地域においては利用率が高く、特に体育館については飽和状況にあります。一方、市北部地域の利用状況は少子高齢化などの影響により年々減少傾向にあり、地域間の格差が生じています。

地域共通の財産である学校施設は、地域スポーツクラブの中心的な活動の場として想定しています。その意味からも一層活用しやすい学校施設のあり方が求められています。施設管理のスマート化を進めるなど、学校開放をさらに推進し、多くの市民が学校施設を利用しやすい環境を整える必要があります。

表 学校体育施設開放利用状況

(ア) 学校体育施設（山陽）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	R 元年度	R 6年度	R 元年度	R 6年度
山陽小学校	320	357	7,414	5,632
山陽西小学校	479	330	5,948	5,112
山陽東小学校	413	270	10,331	8,011
山陽北小学校	500	235	9,385	4,092
高陽中学校	679	540	11,079	7,522
桜が丘中学校	495	608	8,753	10,819

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(18)、卓球(5)、バドミントン(7)、空手(3)、サッカー(3)、軟式野球(3)、
剣道(2)、柔道(1)、バスケットボール(13)、合気道(1)、綱引き(1)、
陸上競技(2)、日本拳法(1)、ドッジボール(1)、3B体操(1)

(イ) 学校体育施設（赤坂）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	R 元年度	R 6年度	R 元年度	R 6年度
石 相 小 学 校	246	155	6,399	1,743
軽 部 小 学 校	324	221	6,068	3,099
笹 岡 小 学 校	3	24	70	345
赤 坂 中 学 校	126	225	2,829	3,160

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(2)、剣道(2)、レクリエーション(2)、バドミントン(3)、運動全般(2)
バスケットボール(3)

(ウ) 学校体育施設（熊山）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	R 元年度	R 6年度	R 元年度	R 6年度
桜 が 丘 小 学 校	542	419	8,156	8,386
磐 梨 小 学 校	187	284	1,884	6,338
豊 田 小 学 校	267	462	3,351	8,703
磐 梨 中 学 校	188	367	2,752	3,890

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(5)、バドミントン(2)、サッカー(1)、バトン(1)、親子ふれあい(1)
日本拳法(1)、バスケットボール(6)、空手(1)、レクリエーション(2)、フットサル(2)、
ドッジボール(1)

(エ) 学校体育施設（吉井）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	R 元年度	R 6年度	R 元年度	R 6年度
仁 美 小 学 校	104	8	2,600	173
城 南 小 学 校	276	41	4,890	840
吉 井 中 学 校	107	164	1,703	2,287

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(2), サッカー(1), レクリエーション(1), 剣道 (1)

(2) 学校における体育・スポーツ活動

赤磐市の児童・生徒の体力・運動能力の実態は、全国や県の平均に比べて低い傾向があります。特に、小学5年生女子は、前回調査時と同様の傾向が見られ、ほとんどの種目で岡山県や全国の平均よりも下回る結果となっています。特に持久力と瞬発力に課題が見受けられます。全般的に低水準の結果を改善するためには、生涯スポーツの基礎につながる運動に親しむ習慣を身に着けることが重要です。これには様々な運動領域の経験を増やす体育指導が重要な鍵となります。

中学校の運動部活動では、少子化に伴う生徒数の減少により、参加生徒数も減少しています。このため、団体競技では単独校によるチーム編成が困難な状況が生じています。また、教員の実技指導力不足などの要因から、十分な指導ができず、生徒のニーズに対応できない状況もあります。こうした学校部活動を取り巻く全国的な課題や教員の働き方改革の流れを受けて、国は部活動の地域展開、特に休日部活動の地域展開の方針を示しました。市では、地域連携に向けた基本方針を定めて、取り組んでいきます。

一部の部活動には外部指導者が活用されていますが、今後はさらに外部指導者制度の導入や地域の人材を活用し、学校部活動の受け皿としてのクラブと学校との連携を進めていく必要があります。また、このような制度構築に向けては、練習や大会参加における責任の問題や人材確保、経費捻出などの課題検討が求められます。

表 赤磐市立中学校運動部活動加入状況

種 目	年度	設置校数	男子(人)	女子(人)	計(人)
陸上競技	令和2年度	1	16	7	23
	令和6年度	1	12	5	17
バスケットボール	令和2年度	4	75	47	122
	令和6年度	4	91	55	146
サッカー	令和2年度	2	53	2	55
	令和6年度	2	55	3	58
軟式野球	令和2年度	5	53	2	55
	令和6年度	3	53	2	55
バレーボール	令和2年度	2	0	37	37
	令和6年度	2	0	41	41
ソフトテニス	令和2年度	5	138	87	225
	令和6年度	5	108	61	169
卓球	令和2年度	1	36	25	61
	令和6年度	1	31	21	52
バドミントン	令和2年度	1	0	25	25
	令和6年度	1	0	22	22
柔道	令和2年度	3	28	8	36
	令和6年度	2	5	2	7
剣道	令和2年度	5	32	15	47
	令和6年度	4	18	6	24
ホッケー	令和2年度	1	11	12	23
	令和6年度	1	12	13	25
部 員 数 計	令和2年度		442	267	709
	令和6年度		385	231	616
生 徒 数 計	令和2年度		592	555	1,147
	令和6年度		580	555	1,035
入 部 率	令和2年度		74.66%	48.11%	61.81%
	令和6年度		66.38%	41.62%	59.52%
岡山県入部率（令和6年度）			67.3%	48.7%	58.2%

表 児童・生徒の体力・運動能力テスト（令和 6 年 12 月現在の最新データを掲載 R2 年度は未実施）

※△は全国平均より劣るもの

小学校 5 年生男子		種 目 別 平 均 値							
区分		握力 (kg)	上体起 こし(回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび(点)	20m シ ャトルラ ン(回)	50m 走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ソフトボ ール投 げ(m)
赤磐市	令和元年度	16.11	19.55	32.26	42.37	51.53	9.5	149.98	21.04
	令和 6 年度	16.03	18.83	33.29	39.28	43.14	9.51	150.44	19.91
岡山県	令和 6 年度	15.95	19.64	33.52	41.91	47.57	9.40	153.57	20.94
全 国	令和 6 年度	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75
赤磐市 R 元と R6 の比較		△ 0.08	△ 0.72	1.03	△ 3.09	△ 8.39	△ 0.01	0.46	△ 1.13
赤磐市と岡山県の比較		0.08	△ 0.81	△ 0.23	△ 2.63	△ 4.43	△ 0.11	△ 3.13	△ 1.03
赤磐市と全国の比較		0.02	△ 0.36	△ 0.50	△ 1.38	△ 3.76	△ 0.01	0.02	△ 0.84

小学校 5 年生女子		種 目 別 平 均 値							
区分		握力 (kg)	上体起 こし(回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび(点)	20m シ ャトルラ ン(回)	50m 走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ソフトボ ール投 げ(m)
赤磐市	令和元年度	15.31	17.63	35.31	39.94	38.46	9.76	141.73	11.94
	令和 6 年度	15.65	18.28	39.92	38.26	34.20	9.78	143.91	12.41
岡山県	令和 6 年度	15.82	18.37	37.49	39.96	37.18	9.65	146.71	13.65
全 国	令和 6 年度	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15
赤磐市 R 元と R6 の比較		0.34	0.65	4.61	△ 1.68	△ 4.26	△ 0.02	2.18	0.47
赤磐市と岡山県の比較		△ 0.17	△ 0.09	2.43	△ 1.70	△ 2.98	△ 0.13	△ 2.80	△ 1.24
赤磐市と全国の比較		△ 0.12	0.12	1.73	△ 0.44	△ 2.39	△ 0.01	0.78	△ 0.74

中学校 2 年生男子		種 目 別 平 均 値							
区分		握力 (kg)	上体起 こし(回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび(点)	20m シ ャトルラ ン(回)	50m 走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ソフトボ ール投 げ(m)
赤磐市	令和元年度	29.21	26.96	43.52	51.82	80.88	8.03	194.16	20.61
	令和 6 年度	29.65	25.39	47.84	53.53	76.35	7.86	211.98	21.18
岡山県	令和 6 年度	29.37	25.73	44.88	52.66	77.90	7.89	199.12	21.38
全 国	令和 6 年度	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	7.99	197.18	20.57
赤磐市 R 元と R6 の比較		0.44	△ 1.57	4.32	1.71	△ 4.53	0.17	17.82	0.57
赤磐市と岡山県の比較		0.28	△ 0.34	2.96	0.87	△ 1.55	0.03	12.86	△ 0.20
赤磐市と全国の比較		0.70	△ 0.55	3.37	2.02	△ 2.63	0.13	14.80	0.61

中学校 2 年生女子		種 目 別 平 均 値							
区分		握力 (kg)	上体起 こし(回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび(点)	20m シ ャトルラ ン(回)	50m 走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ソフトボ ール投 げ(m)
赤磐市	令和元年度	23.48	21.69	42.76	46.06	52.07	8.81	168.33	13.06
	令和 6 年度	23.06	21.83	48.23	47.10	44.36	8.82	172.76	11.74
岡山県	令和 6 年度	23.44	21.47	47.57	46.77	50.04	8.83	168.78	12.86
全 国	令和 6 年度	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	8.96	166.32	12.40
赤磐市 R 元と R6 の比較		△ 0.42	0.14	5.47	1.04	△ 7.71	△ 0.01	4.43	△ 1.32
赤磐市と岡山県の比較		△ 0.38	0.36	0.66	0.33	△ 5.68	0.01	3.98	△ 1.12
赤磐市と全国の比較		△ 0.12	0.27	1.76	1.45	△ 6.31	0.14	6.44	△ 0.66

(3) 競技スポーツ活動

赤磐市にゆかりのあるアスリートが、世界や全国の舞台で活躍することは、競技スポーツへの関心を高め、応援機運を育てるとともに、社会全体の活力を生み出すことにつながります。そのため、オリンピックやパラリンピック、国民スポーツ大会等に出場する選手の発掘・育成を目的とした競技力の向上が必要です。また、指導者や人材の育成・養成も重要です。

赤磐市における競技スポーツは、スポーツ協会を中心に加盟競技団体が行っていますが、計画的系統的なシステムが確立されていないのが現状です。さらに、赤磐市を拠点に活動している岡山シーガルズ、わが町スポーツとして代表されるホッケー競技など、多くの種目において全国大会に出場し、全国上位の優れた成績を収めている選手たちがいます。したがって、これらの選手への応援の気運を醸成することも重要です。

(4) 東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」の継承・発展

東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、スポーツが人々の心を動かす力や楽しさを再認識するとともに、スポーツが今後の社会の活性化に寄与する価値を改めて見出すことができました。このようなスポーツの捉え方は、パリオリンピックでの日本選手や岡山県ゆかりの選手の活躍によって、さらに価値観が高まりました。

また、東京オリンピック事前キャンプの開催を通じて、ニュージーランドとカナダのホッケー競技のホストタウンとして認定を受けた本市は、オリンピック後も交流を続け、市民や学校との交流活動を広く展開しています。さらに、国際試合の開催により、世界レベルの試合を生で観戦する機会も増えました。

このように、スポーツと共生社会への理解・関心の高まりを「スポーツ・レガシー」として継承・発展させ、競技力向上への支援を継続することで、地域の活性化の好循環を実現する必要があります。

3 計画の基本理念

「する」「観る」「支える」「知る」スポーツの推進により、生涯にわたる健やかな体の育成とスポーツライフの振興

スポーツは、「こころ」と「からだ」を健全にはぐくむとともに、人と人との交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送る上で重要な役割を果たしています。また、グローバルな舞台での日本人アスリートの活躍やスポーツイベントへの市民ボランティア参加の推進により、スポーツ文化は定着している一方で、新型コロナウイルス感染症の影響や中学校の部活動の見直しなど、スポーツを取り巻く環境も変化してきています。

そのような中で、市民の多様なスポーツニーズへの対応と健康増進を図るため、組織の改編や関係団体との連携による取り組みの推進・強化を行います。また、誰もが気軽に参加・交流できるスポーツ活動への関わりの機会を提供し、地域スポーツクラブの活性化やスポーツ・レクリエーションによる健康づくりと交流活動などを推進します。

さらに、「わが町スポーツ」の推進と共に、オリンピックレガシーとしてニュージーランドとカナダとのホッケー競技を核とした交流を継続し、「ホッケーのまち赤磐」として本市の特徴を活かしながら国際交流を含めた活動を推進します。加えて、岡山シーガルズの練習拠点であることを地域資源として活用し、特色ある活動を通じて、生涯にわたる健やかな体の育成とスポーツライフを振興します。

※わが町スポーツの推進(「ホッケーのまち赤磐」)

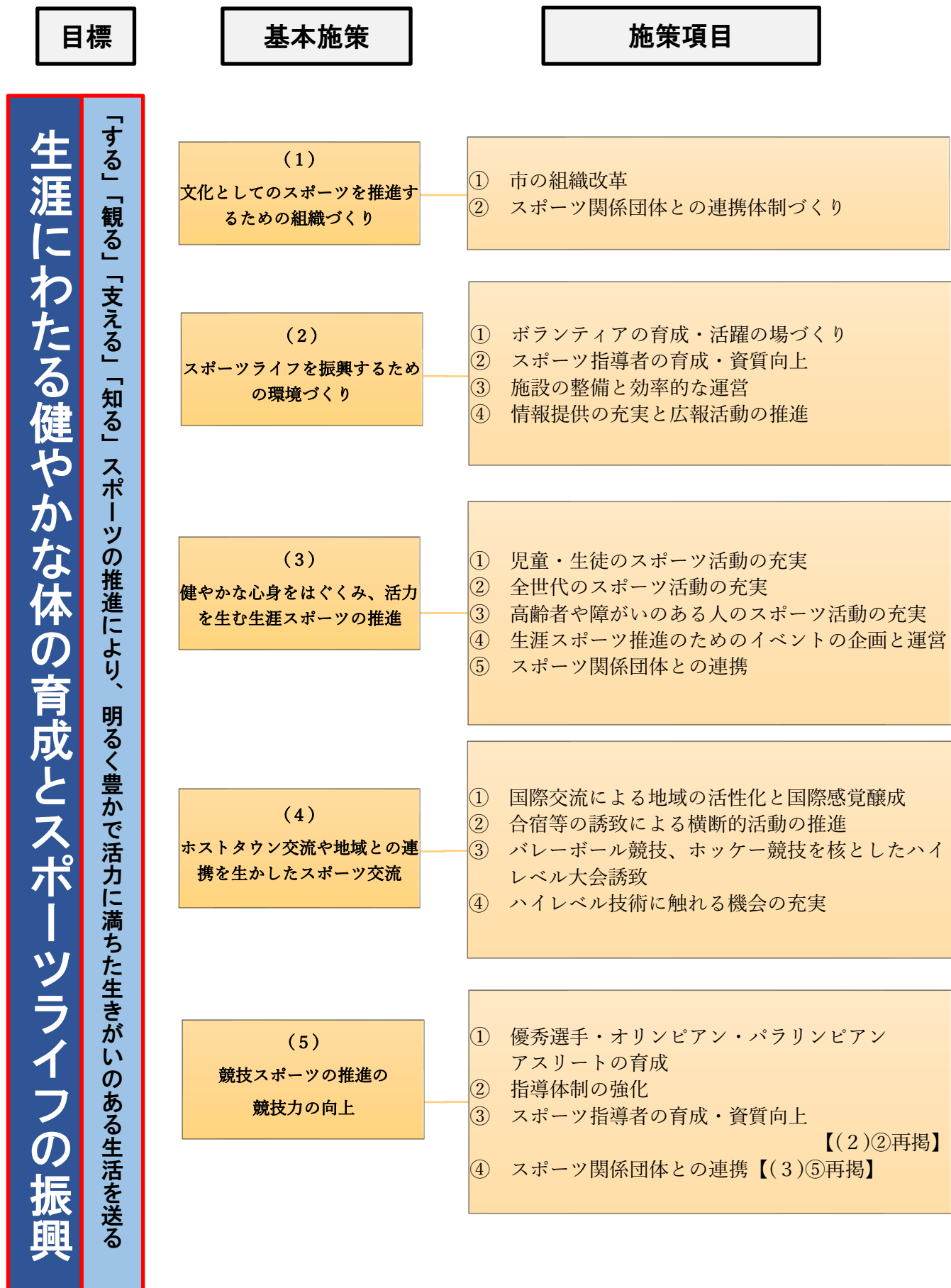
「わが町スポーツの推進」とは、平成 17 年晴れの国おかやま国体を契機として、岡山県内の各地域に、シンボルとなるスポーツ（地域に根差した特色ある競技種目）の活性化や普及に向けた計画を推進していこうという考え方です。赤磐市は、昭和 37 年岡山国体開催以来、岡山県内でホッケー競技の拠点として活動を継続してきた歴史があります。そして東京 2020 オリンピックのニュージーランド代表女子とカナダ代表男子ホッケーチームのキャンプ誘致、日本の最高峰の大会である全日本ホッケー選手権大会の開催（平成 30 年～令和 6 年：5 回もの地方開催は日本ホッケー史上初）などを考えると「ホッケー競技」はまさに赤磐市の「わが町スポーツ」といえます。また、東京オリンピック時のニュージーランド代表女子とカナダ代表男子のホッケー競技事前キャンプ地のレガシーとして、ニュージーランドホッケー連盟とカナダホッケー連盟とのホッケー交流が継続されていることから、「ホッケーのまち赤磐」として、赤磐市の特色を活かしながら、国際交流を含めた活動を推進しています。また、岡山シーガルズの練習拠点であることから、バレーボールのハイレベルの大会誘致とサポーターの盛り上げを支援して、市全体の活性化につなげていきます。さらには、現代のスポーツ種目の多様化に対応し、ニーズに応じた各種スポーツの振興と発展に取り組んでまいります。

全国規模の大会誘致（ハイレベルの試合観戦）

赤磐市・赤磐市教育委員会が主催、共催、後援した全国大会（過去 8 年間）

大会名	開催年	開催場所	種類	来場者数
全日本男女ホッケー選手権大会	R 1. 12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	2,000人
全日本男女ホッケー選手権大会	R 1. 12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	3,000人
全日本男女ホッケー選手権大会	R 2. 12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	2,500人
全日本男女ホッケー選手権大会	R 3. 11	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	3,100人
全日本女子ホッケー選手権大会	R 5. 12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	3,000人
全日本女子ホッケー選手権大会	R 6. 11	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	2,800人
V. LEAGUE DIVISION1 WOMEN	R 4. 11	山陽ふれあい公園体育館	市 後援	1,000人
V. LEAGUE DIVISION1 WOMEN V Cup	R 6. 3	山陽ふれあい公園体育館	市 後援	1,300人
SV. LEAGUE DIVISION1 WOMEN	R 6. 11	山陽ふれあい公園体育館	市 後援	1,400人

4 計画の体系



5 数値目標

目標数値を設定し、本計画を推進します。現状値（令和6年度）、目標値（令和10年度）。

基本施策（1）文化としてのスポーツを推進するための組織づくり

数値目標	現状値	目標値
市のスポーツイベントにおいて資金面や人材面で連携した企業数	数値なし	5

基本施策（2）スポーツライフを振興するための環境づくり

数値目標	現状値	目標値
スポーツボランティア従事者数	数値なし	100人
市スポーツ施設の利用者数	406,536人	430,000人
学校施設開放における利用者数	80,152人	85,000人

基本施策（3）健やかな心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進

数値目標	現状値	目標値
成人男女の週1回以上運動している人の割合	30.0%	50.0%
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合	小5男子 92.8%	小5男子 93.0%
	小5女子 78.2%	小5女子 80.0%
	中2男子 89.4%	中2男子 90.0%
	中2女子 73.4%	中2女子 75.0%
社会体育関係事業への参加者数	4,812人	6,000人

基本施策（4）ホストタウン交流や地域との連携を生かしたスポーツ交流

数値目標	現状値	目標値
海外チーム・日本代表チーム・代表選手 招へい件数	4件	5件
全国大会・SVリーグ等トップレベルリーグ 開催回数	2回	3回
シーガルズSVリーグホームゲーム観客動員数（1回あたり平均人数）	700人	1,000人

基本施策（5）競技スポーツの推進と競技力の向上

数値目標	現状値	目標値
全国大会出場者人数	72人	100人

6 基本施策

(1)文化としてのスポーツを推進するための組織づくり

旧態依然の組織と考え方を踏襲することを改革し、スポーツを文化として推進していくための組織を作ります。自主運営できるスポーツ団体の育成、地域の企業・グループなどとの連携を推進します。

①市の組織改革

- スポーツを文化として推進し、スポーツでまちづくり、人づくりを目指す組織を作ります。市内の企業や団体等と協力しながら、下記の事業を展開するための体制づくりを推進します。
- | | |
|--------------|--|
| ・生涯スポーツ推進 | 市民対象スポーツイベント、大規模イベント
スポーツ団体の育成・連携
ボランティア制度企画、配置、育成 |
| ・競技スポーツ推進 | 優秀選手の育成・支援
指導者育成、資質向上 |
| ・スポーツレガシーの継承 | ホッケー競技とバレーボール競技を活用したハイレベル大会誘致
ニュージーランド、カナダとの交流推進 |
| ・施設拡充・活用促進 | 施設改修・ネーミングライツ、学校開放事業 |

②協力団体・関係団体との連携体制づくり

- これまで市予算を活用し市職員が運営してきたイベントを地域の企業・グループ、商工会などの各種団体と連携して、資金面や人材面の支援や協力を得ながら、社会が支えとなるスポーツ推進体制の構築を目指します。

(2)スポーツライフを振興するための環境づくり

環境要因を人的、物的（施設）、場、情報の四つに大別し、それぞれの分野で組織的に環境を整えます。特に、指導者とボランティアの育成、指導者が指導しやすい環境の整備、施設の改修、自治体の経費に頼らない協賛システムの構築を重視します。

①ボランティアの育成・活躍の場づくり

- スポーツや地域で行うスポーツ教室の円滑な運営のためには、運営を支えるスポーツボランティアが不可欠です。スポーツボランティアの紹介やスポーツボランティアリーダーの養成に積極的に取り組み、スポーツボランティアの数を増やします。
- スポーツイベントや各種大会、合宿にボランティアを配置し、さまざまな面でスポーツを通じた支援を行います。そして、「支える」スポーツを推進し、自己有用感や達成感を高めることを目指します。

②スポーツ指導者の育成・資質向上

- 競技力の向上を目指すために、スポーツの専門的知識を有する指導者を確保します。
- ハイレベルを目指すアスリートの育成には、競技者一人ひとりの特性を的確に把握し、その能力を最大限に発揮させることができる指導者の育成が必要です。そこで、関係機関と連携し、より高度な専門的知識と指導力を持つ競技スポーツ指導者の養成事業を推進します。また、高度な能力を要する指導や競技種目の指導者不足については、県や周辺市町、大学などの専門機関と連携し、指導者の確保に努めます。
- 市内の指導者の資質向上と相互の連携を図り、ジュニア層の育成やスポーツ競技力の向上を目的とした、スポーツ協会やスポーツ少年団が行う研修会を継続して実施します。さらに、県や県スポーツ協会が開催する「スポーツ指導者セミナー」など、各種研修会や講習会の開催情報の提供にも努めます。
- 指導者が十分な指導を行える環境整備に努めます。具体的には、公務員（市役所職員）や協賛企業の従事者で市が公認した登録指導者は、夕方の指導を勤務の一部として認める制度を確立します。

③施設の整備と効率的な運営

- 現在、山陽ふれあい公園をはじめ、赤坂ファミリー公園、熊山運動公園、吉井B & G 海洋センター、赤磐市グラウンド・ゴルフ場など、たくさんのスポーツ施設が整備され、多くの市民に利用されています。
　　今後は、多様化する市民ニーズを的確に把握し、「赤磐市総合計画」との整合性を図りながら、優先順位をつけて、日常的にスポーツに親しむことができ、気軽に健康づくりを行うことのできる拠点施設の整備を進めていきます。また、施設の老朽化に伴い、けがの防止や利用促進の観点から、計画的な修繕、整備、改修を推進していきます。
- 施設利用状況の随時確認や申請手続きの簡素化など、利用者の利便性にむけた取り組みを行います。
- 学校体育施設は各地域のスポーツ交流施設として大きな役割を果たしており、現在も定期的に利用している団体が多く、その機能を発揮しています。今後も学校と連携し、より一層利便性の優れた施設として、市民が平等に活用できるよう調整に努め、計画的に利用していきます。
- 効率的かつ効果的なスポーツ施設の管理運営を推進するために、グラウンド・ゴルフ場、山陽ふれあい公園（桜が丘運動公園、西山グラウンド）、吉井B & G 海洋センター（草生多目的広場、草生テニスコート、吉井グラウンド）について指定管理者制度を導入し、管理・運営をおこなっています。管理運営経費の削減を図るとともに、利用者ニーズへの柔軟な対応によってより質の高いサービスの提供に努めます。今後は、利用者の利便性向上を目的として、さらに他の施設でも指定管理者制度の導入を推進していきます。
- ネーミングライツなどの資金作りを計画し、協賛企業などと協力しながら施設の拡充を進めていきます。

④情報提供の充実と広報活動の推進

- 市民がスポーツ活動を通じて、地域社会に参加し、積極的な役割を得られるよう、スポーツボランティア募集を含め、ホームページなどを活用して各種大会やスポーツイベント等の情報提供に努めます。
- 市民一人ひとりが自らの関心や体力に応じて、スポーツを生活文化として日常生活の中で実践できるよう、スポーツの意義や効果について、市民意識の啓発に努めます。
 - 「広報あかいわ」をはじめ、市ホームページやポスター、チラシなど、多様な媒体を通じて情報提供を行い、「する」「観る」「支える」「知る」スポーツへの参加を推進します。

（３）健やかな心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進

中学校部活動における地域連携を進め、子どもや若者のスポーツ活動を推進します。市民のスポーツに対する関心や意欲を喚起し、競技人口の拡大を図ることを目指します。また、関係団体と連携し、競技者の育成及びそれを支える指導体制の確立に努めます。

① 児童・生徒のスポーツ活動の充実

- 小学校体育連盟及び中学校体育連盟の活動を支援し、児童生徒の健全な心や体力の増進及びスポーツの推進、競技力の向上を図ります。
- 地域連携に向けた基本方針を以下のように定め、取り組みを進めます。
　「※¹各中学校区の実態に即して、部活動を存続しつつ、※²地域クラブと共存しながら生徒の活動の場を保障し、※³持続可能な仕組みを工夫しながら赤磐市モデルを確立させていく。」
 - ※¹ 各中学校の主体性を尊重する。
 - ※² 地域移行に向けた地域クラブとの連携や指導者確保は教育委員会が支援。
 - ※³ 持続に必要な資金確保の方策、必要な規程づくり。
- 部活動の地域連携に伴う中学生の活動を支援する指導者を発掘し、各学校はもちろん受け皿となるクラブなどに指導者を配置します。
- 子どもたちの基礎体力の向上はもとより、一人ひとりが運動や健康に関心を持ち、運動の楽しさや喜びを味わえるよう、自発的・自主的に運動に取り組むことができる学校体育やスポーツ活動を推進します。
- スポーツによる青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団やジュニアクラブ活動を継続し、今後ますます活性化させるためにも、体を動かすことの楽しさを味わい体力の向上を図る場として、スポーツ少年団やジュニアクラブ活動を広く周知し、加入を促進します。

②全世代のスポーツ活動の充実

- 社会福祉協議会をはじめとする保健福祉機関との連携を強化して、サークルなどの活動を支援したり、託児体制を整えたり、若者が参加しやすい種目を新たに設けたりして、場づくりに努めます。
- 健康づくりの観点から見たスポーツの意義など、健康とスポーツの関わりを市民に対して広く啓発するとともに、健康教室や相談窓口を通じて健康づくりに対する正しい知識の普及に努めます。

③高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の充実

- 高齢者や障がいのある人がスポーツを通じて心身の機能向上を図り、健康と生きがいづくりを促進するため、気軽に楽しめるスポーツプログラム充実に努め、高齢者や障がい者スポーツの人口拡大を目指します。
- 障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒になって楽しめるスポーツ大会等を開催することで、障がいのある人の積極的な社会参加を促進します。これにより交流を深め、相互理解を図ります。

④生涯スポーツ推進のためのイベントの企画と運営

- 市民の誰もが気軽に参加できる「スポレクフェステ赤磐」や世代間交流が図れる「市民グラウンド・ゴルフ大会」、市内小学校の交流と体力向上を目指した「小学生ドッジボール大会」などさまざまな魅力的な大会の開催を推進してきました。しかし、行事の継続を目的とするのではなく、今後はニーズや社会情勢など多方面から検討し、見直しや方法の改善を図っていきます。
- 普段、運動やスポーツをする機会の少ない地域住民を対象とした「トレーニング教室」、親子の交流や児童・生徒の体力向上にもつながる「ファミリースポーツ教室」「各種スポーツ教室」など、スポーツに触れる機会の提供を積極的に行います。
- 市民の誰もが手軽に楽しめるレクリエーションや健康の維持・増進のための健康体操などを生涯スポーツ教室のメニューに取り入れ、誰もが一緒になって楽しむことを目的とした取り組みを通じて、その普及を図ります。
- イベントの幅を広げるための工夫やケータリングなど周辺活動を推進し、盛り上がりのあるイベントを目指します。

⑤スポーツ関係団体との連携

- 生涯スポーツ振興のため、地域におけるスポーツの実技指導やニュースポーツの普及活動に取り組んでいるスポーツ推進委員は、研修会や他団体との指導交流などによるスキルアップを図ります。
- スポーツ協会は、加盟競技団体の育成・支援のために行っている重点強化事業や各競技団体が実施している事業を再点検し、多様な主体が参画できる場づくりを目指します。
- 地域に開かれた企業の取り組みや民間スポーツクラブとの連携によって施設や指導者を有効活用することを目指し、競技団体・地域スポーツクラブなどと企業・民間スポーツクラブが連携・協力できる体制づくりを推進します。また、市と協定を結んでいる岡山県ホッケー協会やIPU・環太平洋大学と協力・連携し、学生によるスポーツボランティア活動の支援や指導者の養成など、大学が持つ人的、知的、物的資源を活用して地域貢献活動を行うよう努めます。
- 地域スポーツクラブは、各自の興味や関心に応じてスポーツを楽しむだけでなく、地域住民の交流の場としても機能します。また、青少年の健全育成や心身の健康の保持・増進に寄与し、活力ある地域社会の形成にも重要な役割を果たします。地域スポーツクラブの活動が広く市民に理解されるよう、広報誌やホームページにより普及啓発に努めます。
- 県内には40を超える総合型地域スポーツクラブがあります。県スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ岡山協議会と連携し、地域スポーツクラブ間の情報共有や交流を促進して活性化を図ります。

(4)ホストタウン交流や地域との交流を生かしたスポーツ交流

ホッケー競技を核としたニュージーランドとカナダとの継続した交流活動、バレーボールSVリーグの開催を契機に、ハイレベルの大会誘致や試合観戦の機会を増やし、国際感覚の醸成やイベント開催による地域の活性化を図ります。

東京オリンピックレガシーの継続

赤磐市は、ニュージーランドホッケー連盟、オークランドホッケー連盟、オークランド日本人会などと密接な交流を行い、厚い信頼関係を築いています。また、在日ニュージーランド大使が2019年3月に赤磐市を訪れ、熱い思いを寄せてくださいました。さらに、2021年にはカナダ代表男子ホッケーチームの事前キャンプを実施しました。その後も、2022年アイルランド代表女子ホッケーチームの合宿に続いて、カナダとニュージーランドから代表選手やコーチングスタッフを招いて、多くの市民、特に子どもたちとの学校や園での交流を行っています。単にホッケー競技を行うことではなく、幼稚園や小学校、中学校の子どもたちと給食を共に食べたり、ゲームをしたりしながら、海外とのスポーツ交流を推進しています。今後は、中高校生世代の交流や学校関係者の交流にも発展させていく計画を進めています。

①国際交流による地域の活性化と国際感覚の醸成

- カナダやニュージーランドとのホッケー競技を核とした交流を継続して実施します。ホッケー代表選手やジュニア世代の選手、コーチングスタッフを招いての交流や文化交流、ホームステイの実施、観光エクスカースションなど、スポーツやホッケーにとどまらない波及的な活動を推進します。そのような活動を通じて、市民が広く関わる機会を提供し、国際感覚を深めていくことを目指します。
- ニュージーランドやカナダのジュニア世代のチームが来市し、市および周辺の同年代のホッケーチームと親善試合や交流活動を行います。また、市のホッケーチームがニュージーランドやカナダを訪問して親善試合や交流活動を行います。

②合宿等の誘致による横断的活動の推進

- バレーボールやホッケーは施設が充実しているため、県外のチームが合宿を行うには良い環境にあります。山陽ふれあい公園、熊山武道館、桜が丘運動場など、施設がコンパクトなエリアに集中しており、非常に充実しています。このような利点を活用して県外や関西方面の学生を含むチームの合宿誘致を行います。ボランティア活動の場を増やし、多くの種目で対戦する機会を増やしていくことにつなげます。

③バレーボール競技、ホッケー競技を核としたハイレベル大会誘致

- シーガルズのSVリーグ試合誘致とサポーターによる応援体制を構築します。
- ホッケー全日本選手権や日本リーグの試合を誘致、観戦と大会を楽しむ雰囲気醸成します。
- コラボイベントや託児環境、子供の遊び場を準備する周辺準備、体験コーナーやグッズ販売など、大会を楽しむイベントの創出を推進します。

④ハイレベル技術に触れる機会の充実

- 交流活動や合宿、大会などを活用したスポーツ体験や、来市したチームなどの選手や指導者を学校やスポーツ団体に派遣するスポーツ教室を通じて、ハイレベルな技術に触れる機会を充実させます。

(5)競技スポーツの推進と競技力の向上

赤磐市からオリンピックやパラリンピアンを輩出できれば、こうした選手の活躍は市民にとって大きな活力となります。また、障がい者のスポーツ環境整備、パラスポーツの振興についても赤磐市では重点的に取り組む必要があります。これらの取り組みには競技団体との連携が不可欠です。

①優秀選手・オリンピック・パラリンピアン、アスリートの育成

- オリンピックや国民スポーツ大会での日本選手、特に岡山県出身の選手たちの活躍に、多くの市民は勇気と活力をもらいました。日本代表や世界での大会で活躍する選手の多くは、競技団体や学校単位での指導に依存していますが、赤磐市出身者が地元の高校や大学に進学し、地元に残って活躍する場を創造することで、市民が誇りに思える選手が活躍できる環境を整備していきます。
- 全国大会や国際大会に各代表として出場する選手や団体を支援し、選手や大会の認知度を高め、地元選手を応援する機運を育てます。また、選手の励みとなるように、継続的な制度運用と市民への周知に努めます。

②指導体制の強化

○学校やスポーツ少年団などを含む各種目競技団体の指導者をはじめとするスポーツ関係者に対して、幼少期（幼児期・小学校期）から、選手の個の特性や身体の発育に応じた指導ができる一貫指導システムの意義について普及啓発に努めます。また、幼少期の競技者を効果的に育成するためには、幼少期に複数の競技種目を体験させることが有意義であることに加え、継続した活動と指導が可能な場が必要です。

③スポーツ指導者の育成・資質向上【(2)②再掲】

④スポーツ関係団体との連携【(3)⑤再掲】

7 計画の推進及び進行管理

(1) 計画の推進

計画の内容を効果的・効率的に推進するため、次の事項に留意した取り組みを行います。

① 市民の理解と協力

生涯にわたるスポーツライフの実現を図るため、市民一人ひとりが、自らスポーツ推進を図る主体として、スポーツや健康づくりに関心や興味を持つよう、事業の推進を図ります。

② 市内スポーツ関係団体との連携

市スポーツ協会や小学校体育連盟、中学校体育連盟、スポーツ少年団等市内スポーツ関係団体の活動を支援するとともに連携を密にし、スポーツ推進体制の充実に努めます。

③ 岡山県及び(財)岡山県スポーツ協会等との連携

岡山県をはじめとするスポーツ関係組織・団体等との連携強化に努めます。また、スポーツ活動全般に関わる情報発信やトップアスリートの派遣などを行う岡山県スポーツ協会との連携を図ります。

④ 学校・家庭・地域の連携

児童・生徒の体力向上を図るには、学校だけでなく家庭・地域が、運動部活動、家庭生活、地域活動など幅広い分野で連携した取り組みを行う必要があります。生涯スポーツにつながる児童・生徒の体力向上の重要性を認識し共有するため、子どもたちを見守り育ていく地域・家庭・学校との連携体制の強化に努めます。

⑤ 行政内部の連携

本計画の実現には、コミュニティ振興や健康づくりやスポーツによるまちづくりの取り組みにおいて、総合政策分野、産業振興分野、保健福祉分野などの施策との連携が必要となります。行政内部の連携を強化し、横断的な情報交換や事業実施の協力をお互いに行います。

⑥ 計画推進の財政措置

市とスポーツ関係団体等は、計画を実現するために必要な予算等資金の確保とその調整に努め、行財政改革の方向性を遵守しながら、計画的かつ有効に執行できるよう努めます。

(2) 進行管理

計画の推進状況に関する評価は毎年実施する児童・生徒の体力・運動能力調査や事業実施状況、スポーツ施設の整備状況等の資料をもとにスポーツ推進計画策定会議等の意見をふまえ、必要に応じて施策の改善・見直しを行います。

8 資料編

(1)「運動・スポーツに関する市民意識調査」結果

- 1 調査名 赤磐市の運動・スポーツに関する市民意識調査
- 2 目的 「第3次赤磐市スポーツ推進計画」を策定するにあたり、基礎資料とするもの
- 3 実施内容
- (1) 調査対象者 市内在住の「小学校5年生」「中学校2年生」「16歳以上」の市民
 - (2) 抽出方法 小中学生は市内公立全学校を対象
16歳以上の市民は、無作為抽出
 - (3) 調査方法 小中学生は、電子申請アンケート調査で学級ごとに実施
16歳以上の市民は、郵送配布、郵送回収または電子申請回収
 - (4) 調査期間 令和6年9月18日～令和6年10月11日
 - (5) 回収数(率) 小中学生 594人 (75.2%)
16歳以上の市民 623人 (31.1%)

○回収内訳 ※ () 内は前回

学 年	小学5年生	中学2年生	合 計
回答者数	296	298	594

年齢(歳)	16～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	未回答	合計
回答者数	62	74	102	99	126	155	5	623

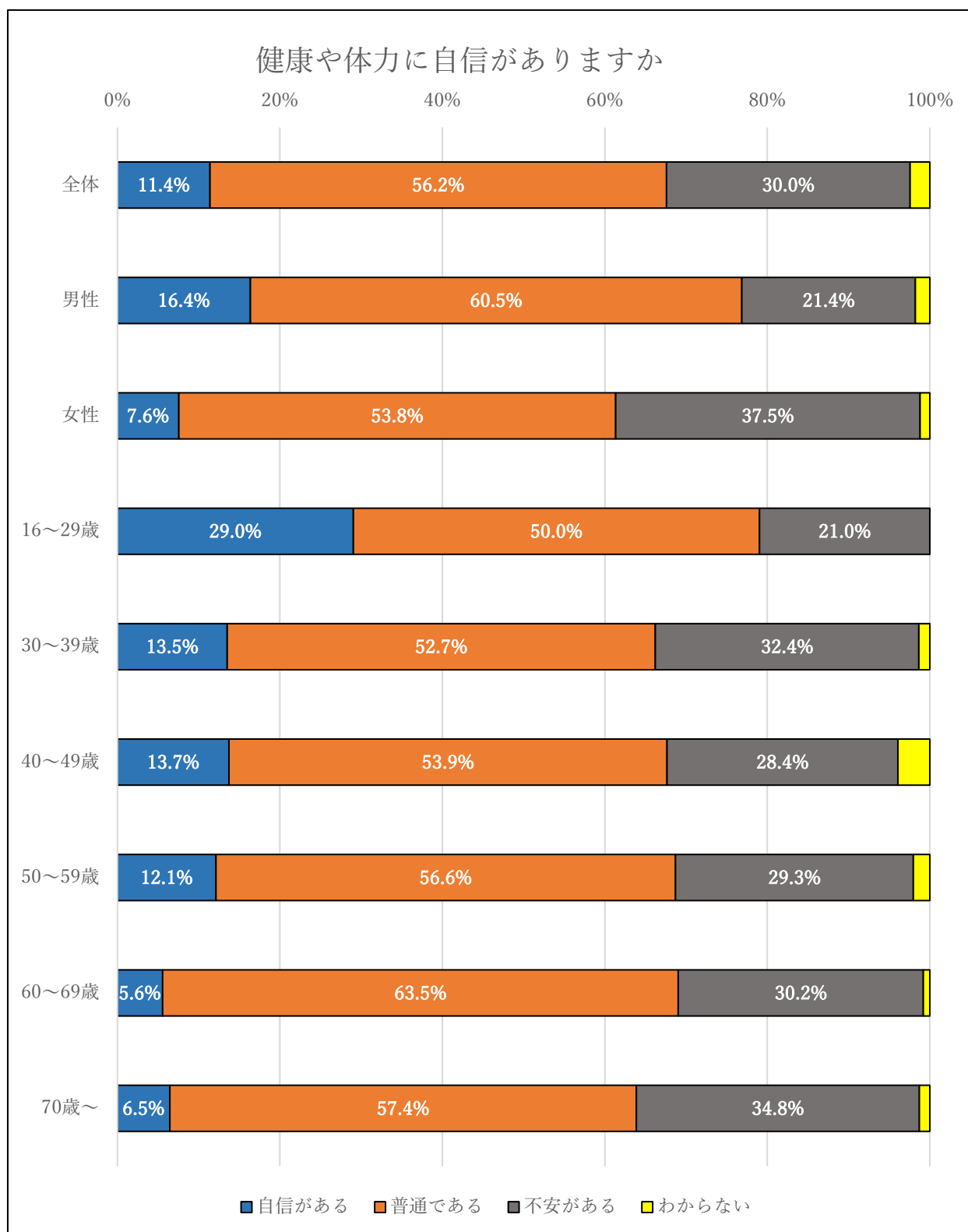
4 一般（16 歳以上）の意識調査結果

運動・スポーツ、健康に関する意識

○設問 4 ご自身の体力についてどのように感じていますか。

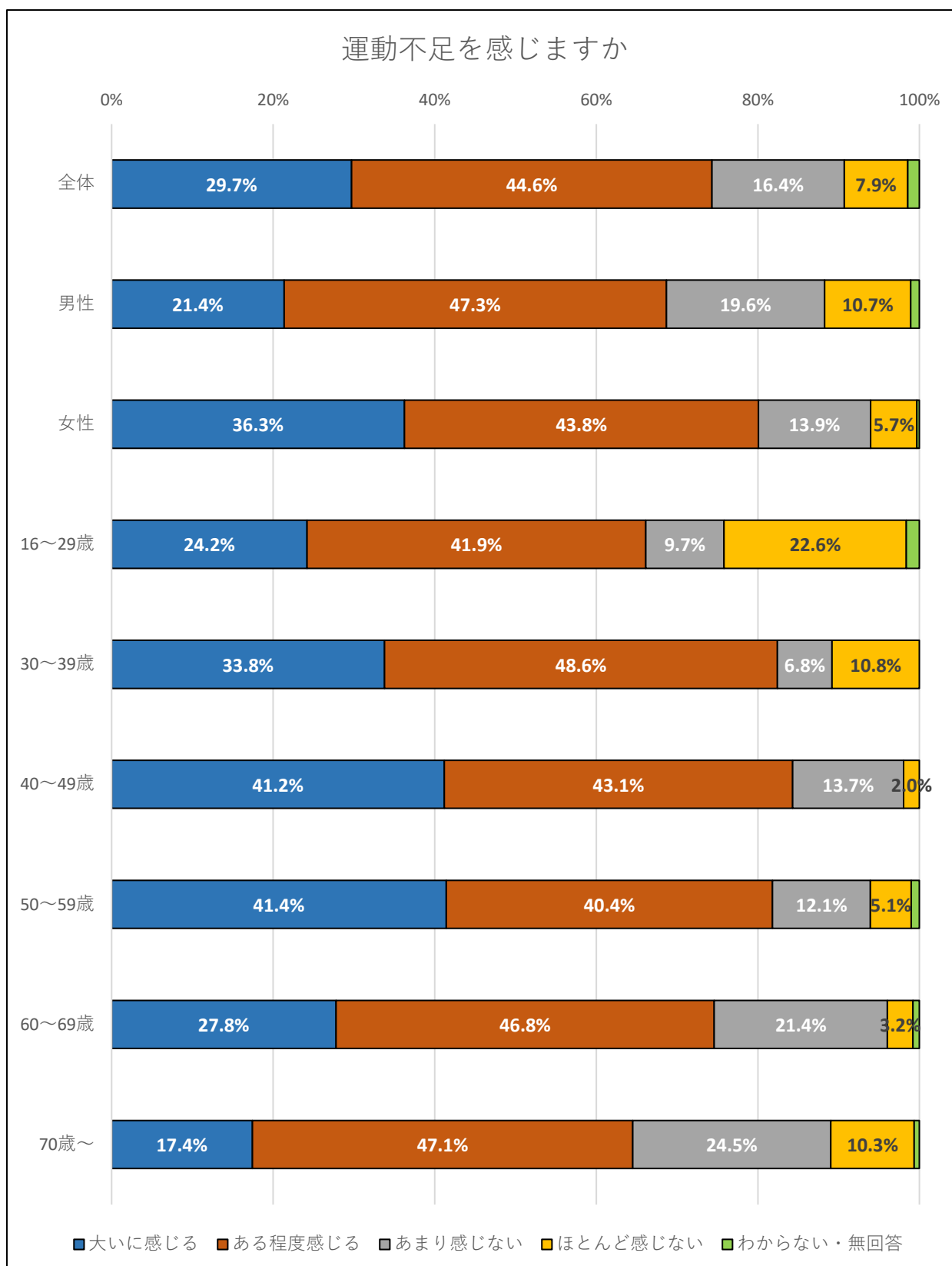
自分の体力に関する認識は男女差が顕著である。「体力に不安がある」と感じている人は、女性 37.5%、男性 21.4%と、女性の方が不安を感じている割合が大きい。

「体力に自信がある」と答えた人の割合は、年齢が上がるにつれて減少傾向となっている。またその割合は、20 歳から 50 歳代に変化は見られないが、60 歳で不安を感じる結果となった。



○設問 5 運動不足を感じますか。

運動不足の感じ方も、体力に不安を感じている項目と同様に男女差が明確にでている。「大いに感じる」と「ある程度感じる」を合わせ、運動不足を感じる人は、男性 68.7%に対して、女性は 80.1%と女性の割合が高くなっている。年齢別にみると、20 歳代と 70 歳以上は、運動不足を感じている割合は他の年代より低くなっているが、30 歳～50 歳代では 80%を超える高い割合で運動不足を感じている。

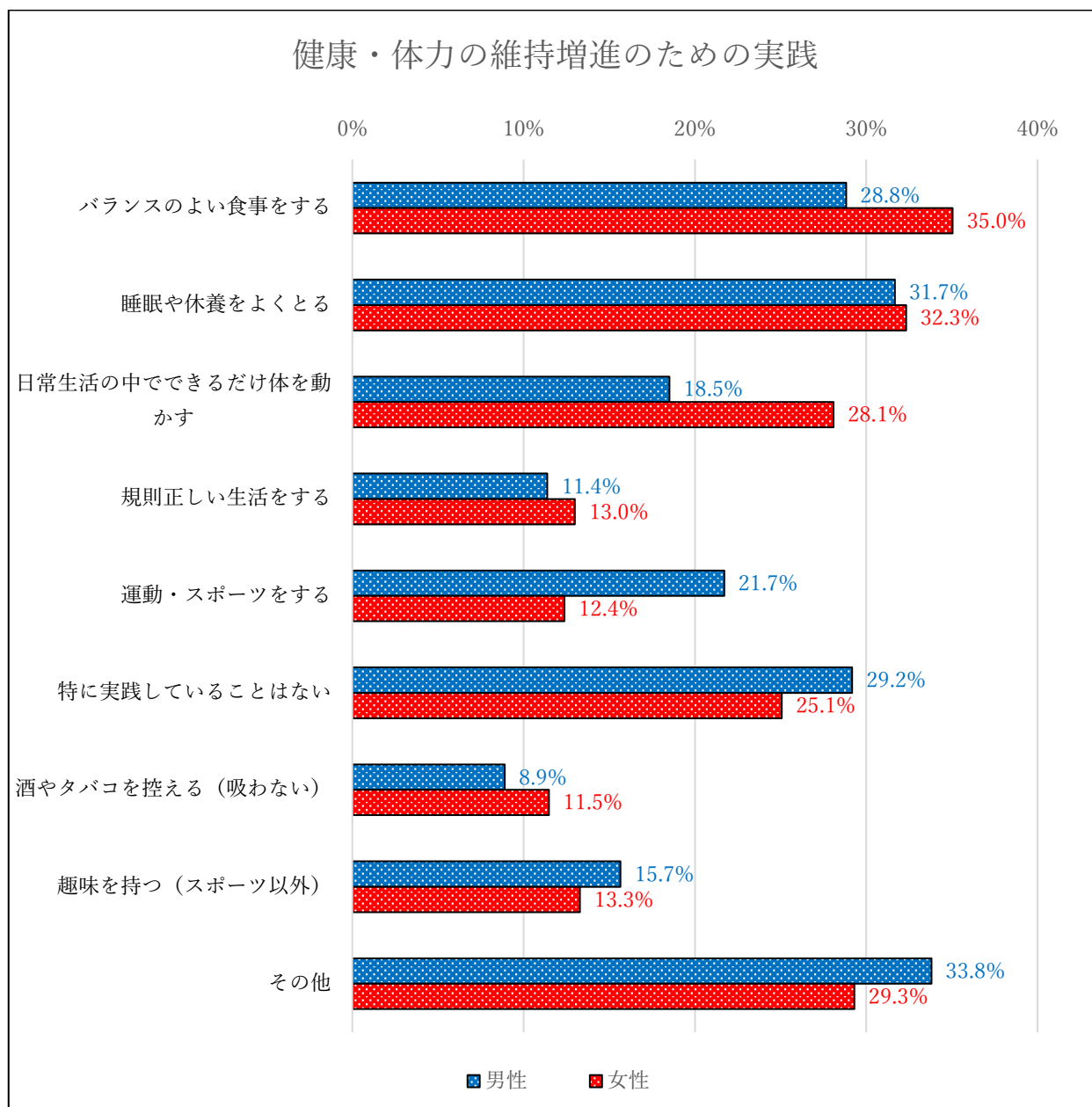


○設問 6 健康や体力の維持増進のために実践していることがありますか。(2 つ以内で選択)

食事、睡眠や休養など、基本的な生活習慣が上位にあがっている。男女差が顕著なのは、女性は「日常生活の中で体を動かす」こと意識している割合が男性に比べ非常に高く、男性は時間を確保して「運動・スポーツをする」と意識している割合が女性に比べて高い。

【年代別上位 3 位】

	16～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
	n=62	n=74	n=102	n=99	n=126	n=155
1 位	睡眠や休養をよくとる	睡眠や休養をよくとる	睡眠や休養をよくとる	バランスのよい食事をする	バランスのよい食事をする	日常生活の中でできるだけ体を動かす
	21	29	36	31	52	63
2 位	バランスのよい食事をする	特に実践していることはない	バランスのよい食事をする	睡眠や休養をよくとる	睡眠や休養をよくとる	バランスのよい食事をする
	18	16	29	29	42	53
3 位	運動・スポーツをする	バランスのよい食事をする	規則正しい生活をする	日常生活の中でできるだけ体を動かす	日常生活の中でできるだけ体を動かす	規則正しい生活をする
	16	15	26	28	36	48

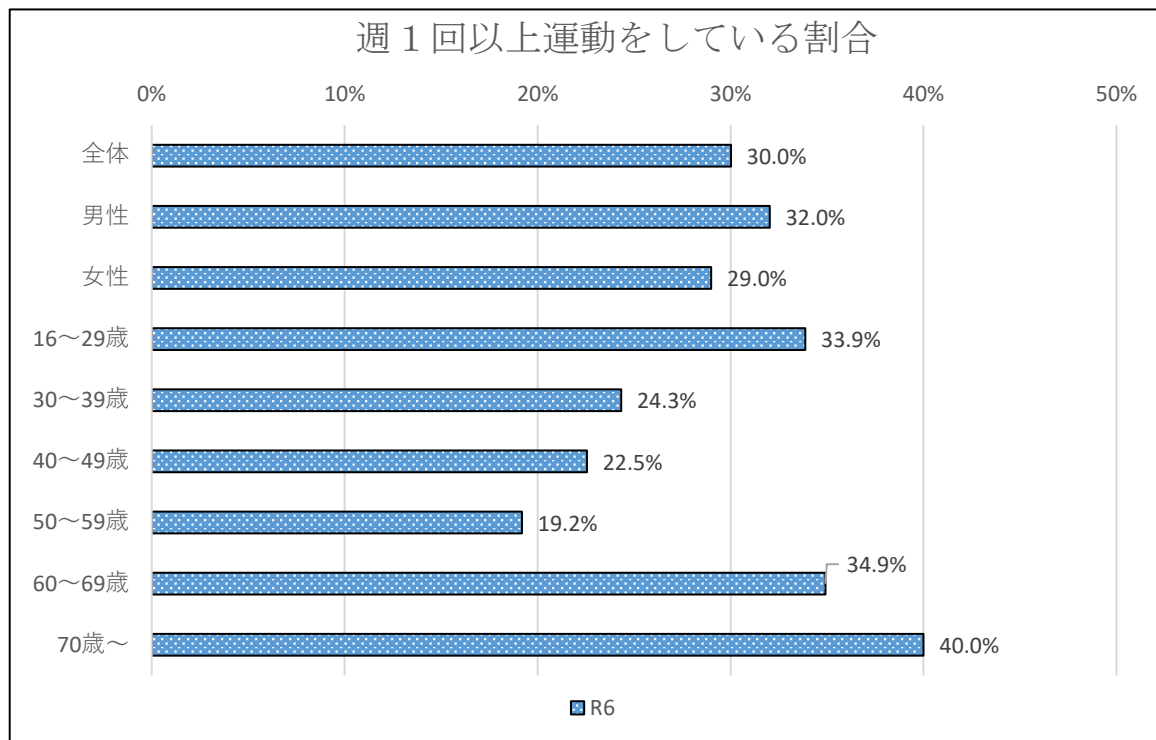


運動・スポーツの実施状況

○設問 7 普段、意識して運動・スポーツをしていますか。

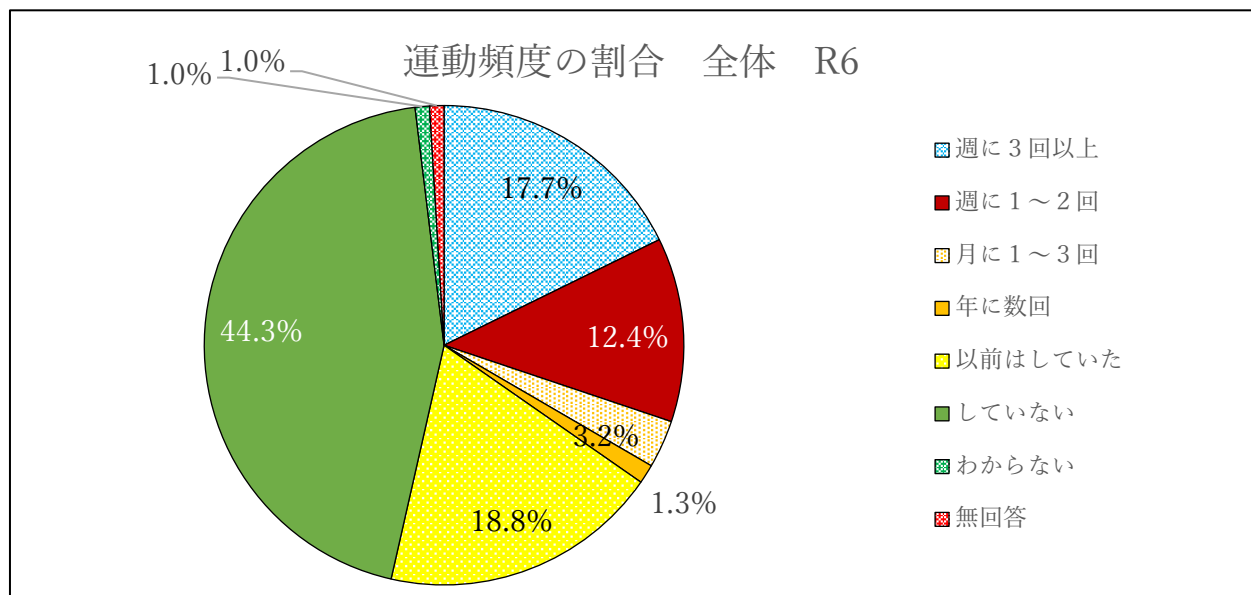
○設問 9 どれくらいの割合で運動・スポーツをしていますか。

現在週 1 回以上運動・スポーツをしている人は全体の約 3 割、「以前はしていた」「していない」を含め、現在していない人は 63.1%と、していない人の割合が高くなっている。週 1 回以上の運動・スポーツの実施率は、16～29 歳と 60 歳以上の割合が高く、特に 70 歳以上が最も多かった。一方で働き盛りの年代である 30 歳～50 歳代は運動割合が低くなっている。



週 1 回以上運動している人の割合

令和 6 年	全体 : 30.0%	男性 : 32.0%	女性 : 29.0%
令和元年	全体 : 28.6%	男性 : 30.1%	女性 : 27.5%



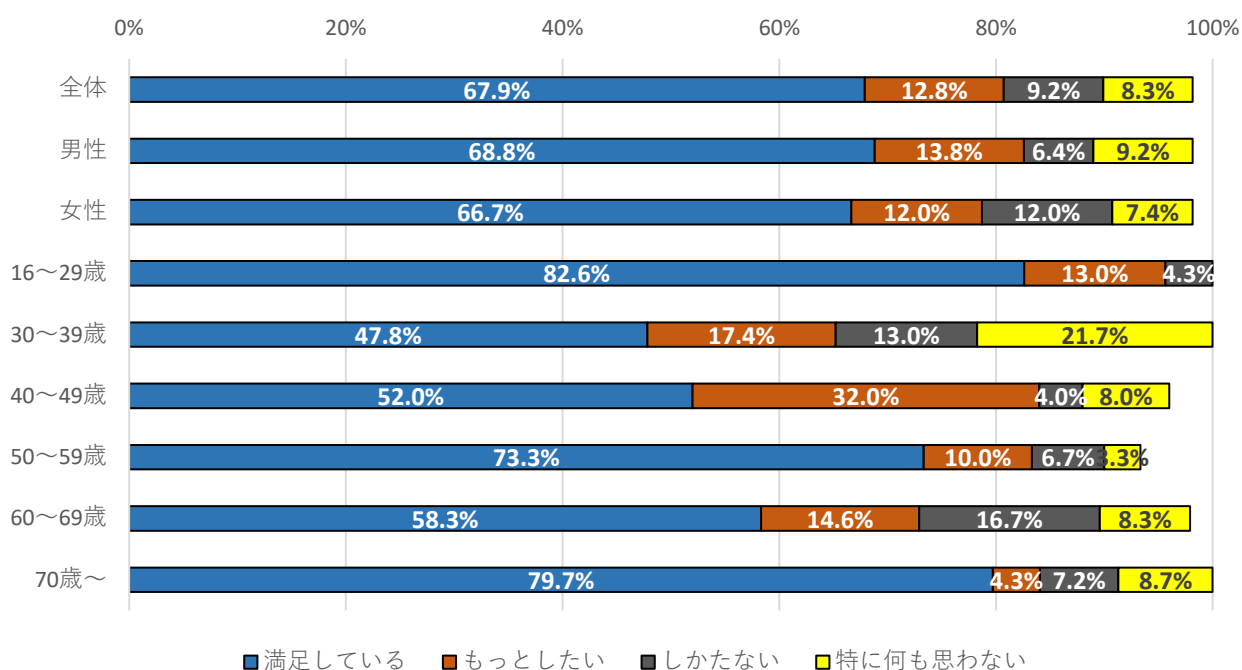
運動・スポーツの満足感

○設問 14 自分の行っている運動・スポーツに満足していますか。

【現在運動をしている人が回答】

現在、運動・スポーツをしていると答えた人のうち、約 68%が「満足している」と答えている。年代別の傾向をみると、16～29 歳と 70 歳代の満足度が 80%前後で高くなっている。また、「満足していないがしかたがない」と答えた割合は男性より女性の方が多く、男女差が出ている項目である。

現在の運動への満足度



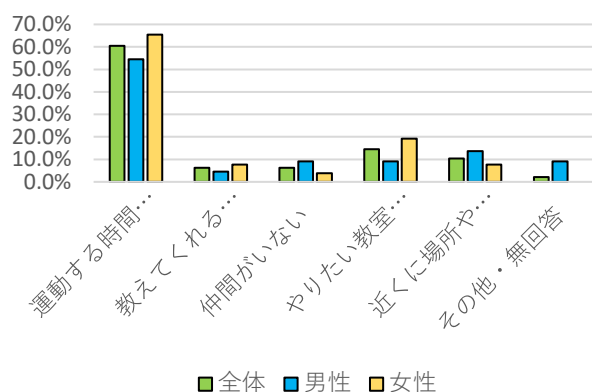
○設問 15 満足していない理由は何ですか。（2つ以内で選択）

【現在の運動実施状況に満足していない人が回答】

「運動する時間が短い」が最も多い。男性は「近くに場所や施設がない」、女性は「やりたい教室や講習会が少ない」が次に多い理由となっている。「運動する時間が短い」、「仲間がいない」、「やりたい教室や講習会が少ない」「近くに場所や施設がない」など多くの項目で男女の差が出ている。

	全体	男性	女性
運動する時間が短い	60.4%	54.5%	65.4%
教えてくれる人がいない	6.3%	4.5%	7.7%
仲間がいない	6.3%	9.1%	3.8%
やりたい教室や講習会が少ない	14.6%	9.1%	19.2%
近くに場所や施設がない	10.4%	13.6%	7.7%
その他・無回答	2.1%	9.1%	0.0%

満足していない理由

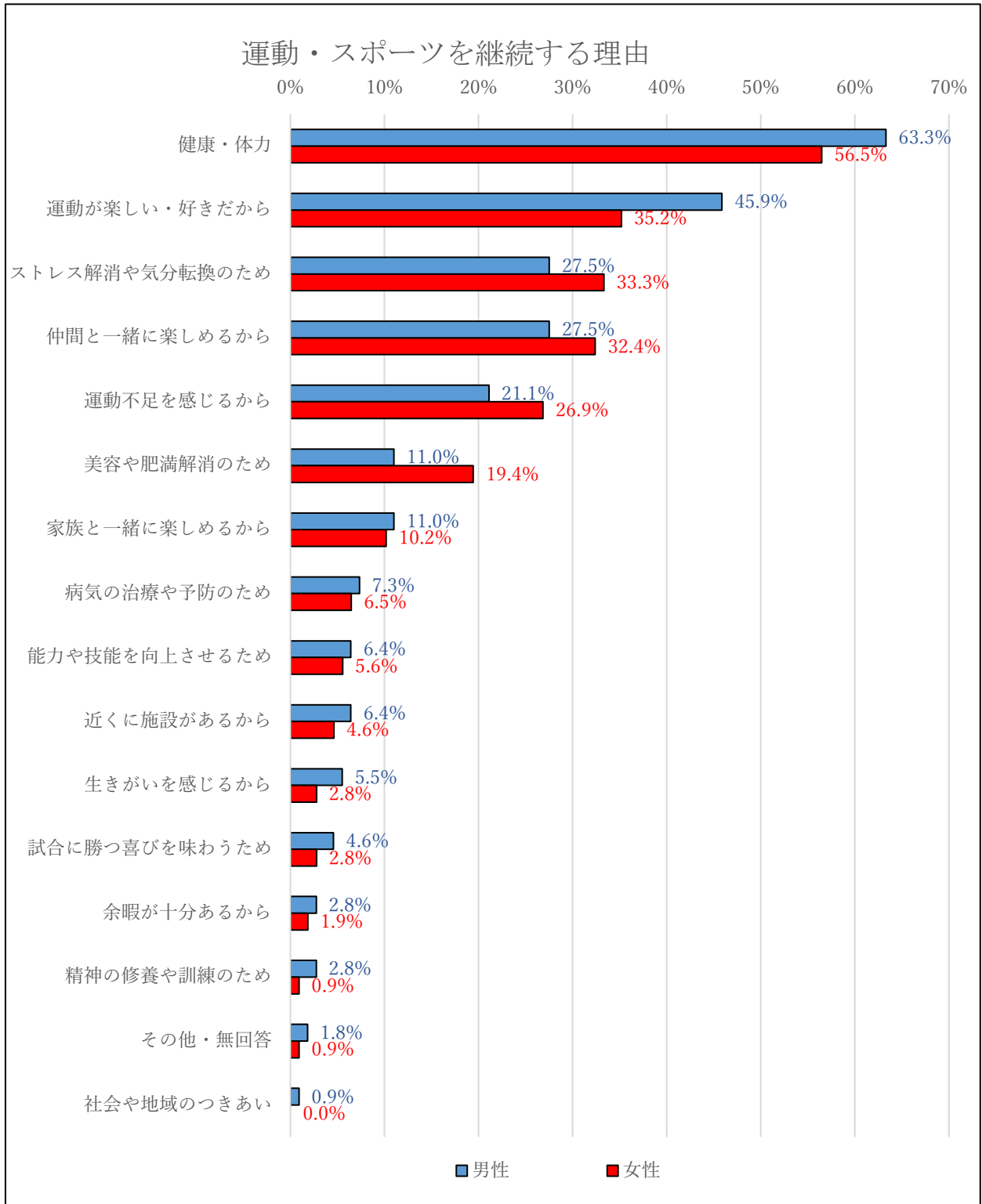


運動・スポーツに対する価値観

○設問 17 運動・スポーツを続けている理由は何ですか。(3つ以内で選択)

【現在運動をしている人が回答】

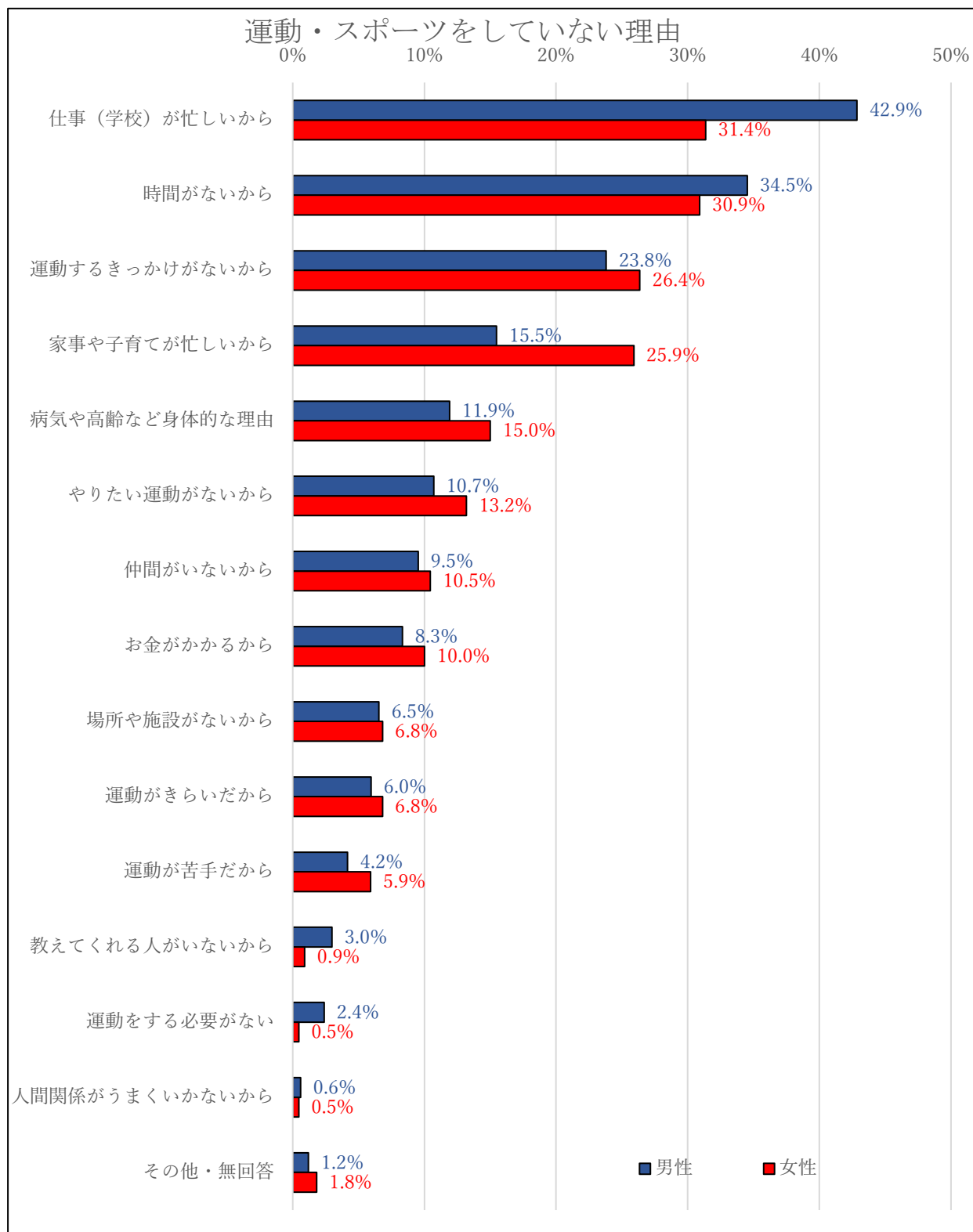
全体では「健康・体力づくりのため」と答えた人が最も高い割合だった。男性は「運動が楽しい・好きだから」という理由が女性よりも多くなっており、女性は「美容や肥満解消」「運動不測解消」「ストレス解消」などが男性よりも高い割合となっている。



○設問 18 運動・スポーツをしていない、または以前はしていたがやめた理由は何ですか。

【現在運動をしていない人が回答】(3 つ以内で選択)

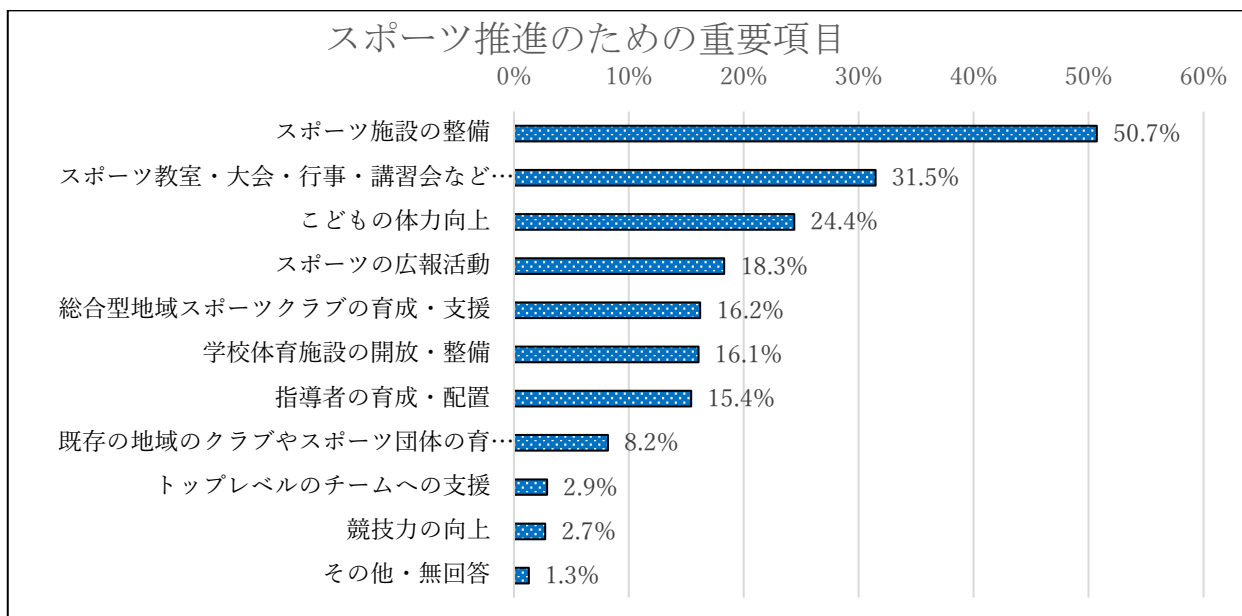
全体では、「仕事（学校）で忙しい」、「時間がない」の割合が高くなっている。この傾向は前回の結果と同様である。次に高い割合を示しているのが「きっかけがない」で、きっかけがあればスポーツをする割合が高くなると期待できる結果である。男女で差があるのは「家事や子育てが忙しい」が、男性が 15.5%に対し、女性は 25.9%、「仕事が忙しい」が、男性 42.9%、女性が 31.4%となっている。



スポーツに振興に関する意識

○設問 24 赤磐市のスポーツ振興にとって重要なことは何だと思いますか。(3 つ以内選択)

割合の上位 3 つは前回と同様で、「施設の整備」が 50%を超えて最も多く、次に「教室・大会・行事」、「子どもの体力向上」となっている。

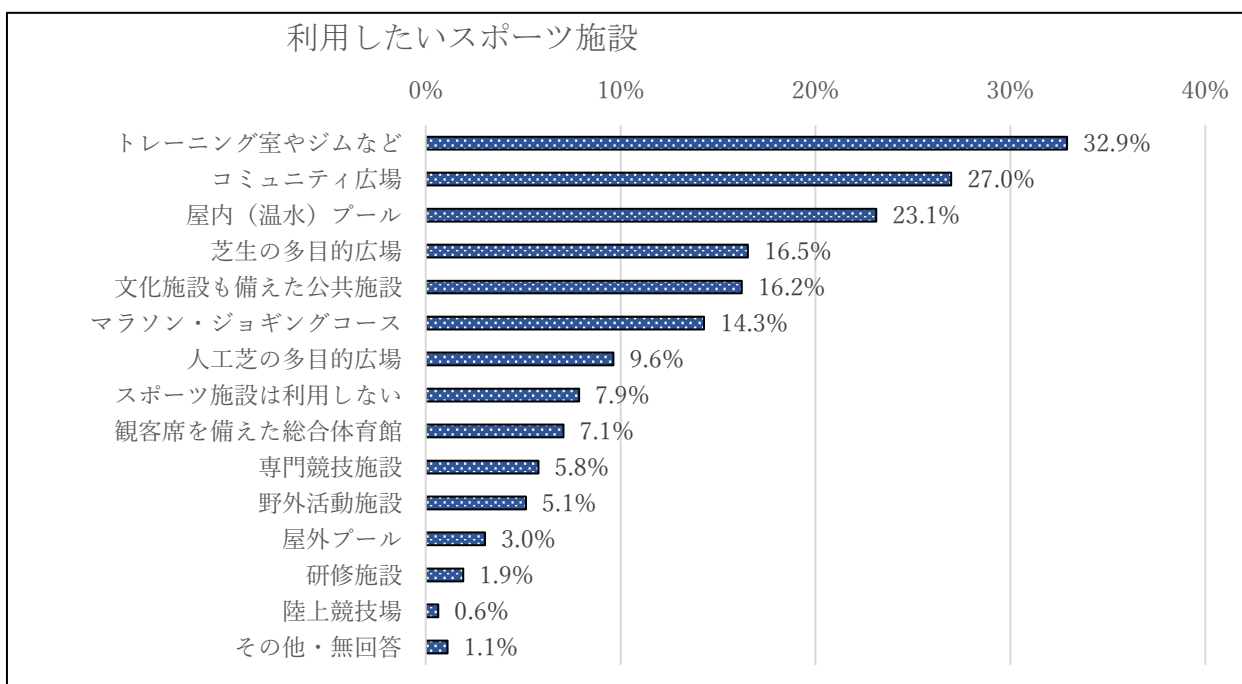


○設問 26 どのようなスポーツ施設を利用したいですか。(3 つ以内で選択)

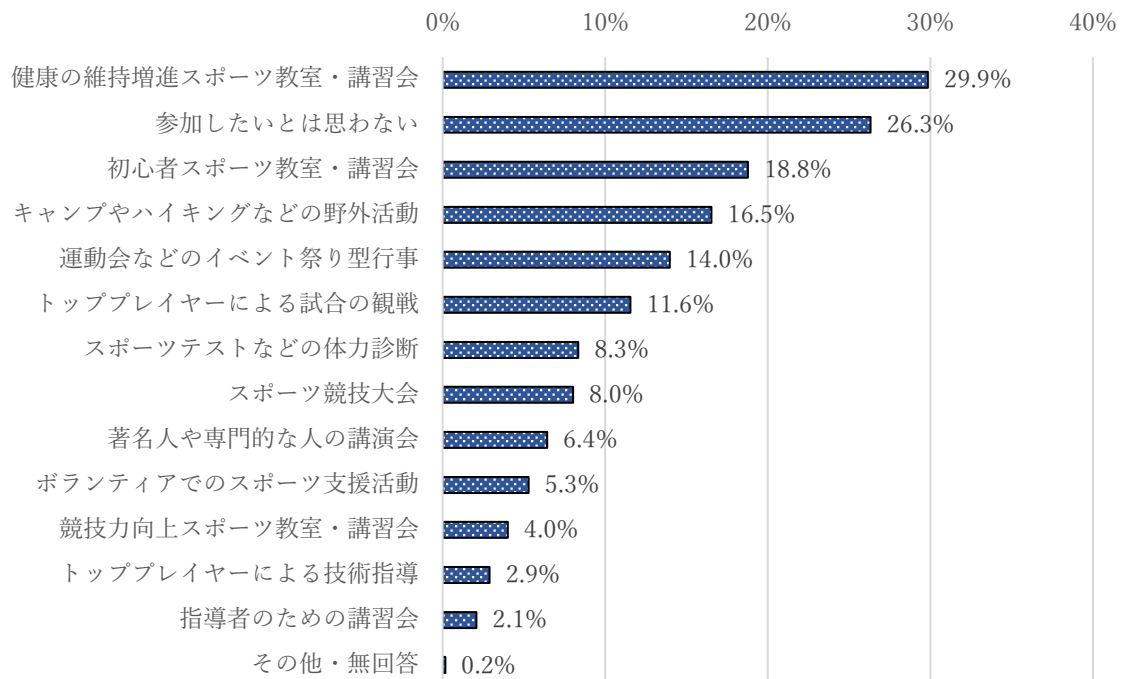
○設問 30 どのようなスポーツ行事に参加したいですか。(3 つ以内で選択)

利用したい施設は、「トレーニング室やジム」が 32.9%、次いで「コミュニティ広場」が 27%、「屋内（温水）プール」23.1%となった。

参加したい行事は、「健康の維持増進を目的としたスポーツ教室」が最も多いが、「参加したいと思わない」の割合が高くなっている。個人や小グループで活動することを好む傾向も見て取れるが、「トッププレイヤーによる試合の観戦」も 1 割を超える割合であることから、「観るスポーツ」のかかわりも考えている傾向がうかがえる。



参加したいスポーツ行事



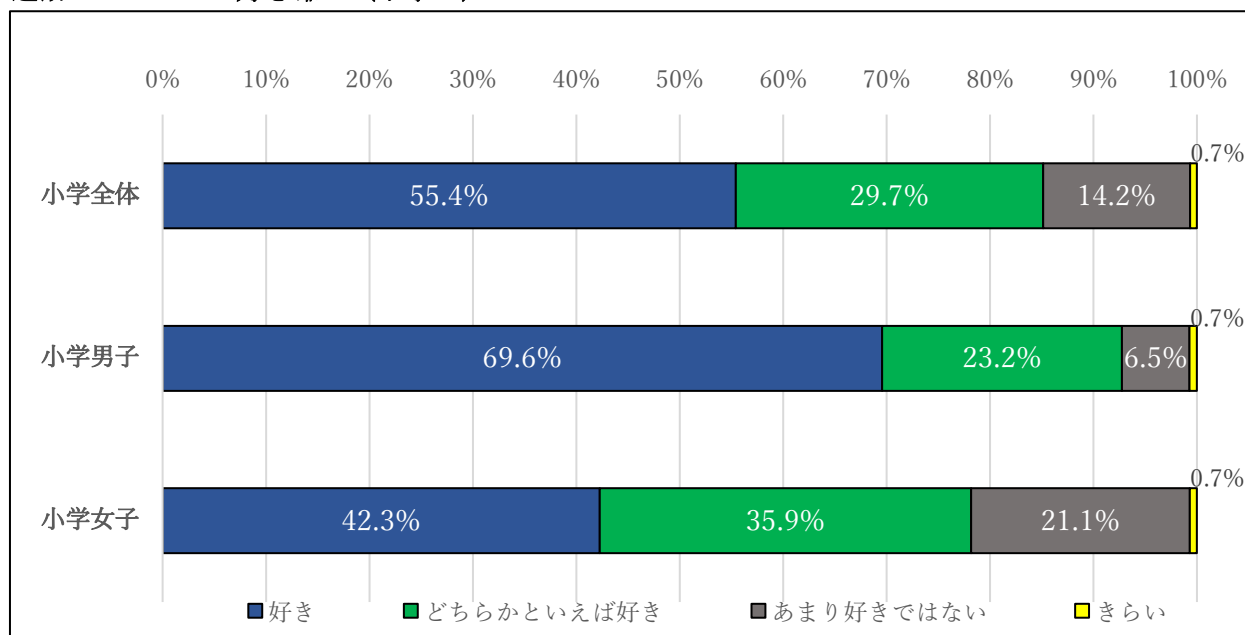
4 小学生（5年）・中学生（2年）の意識調査結果

運動・スポーツに関する意識

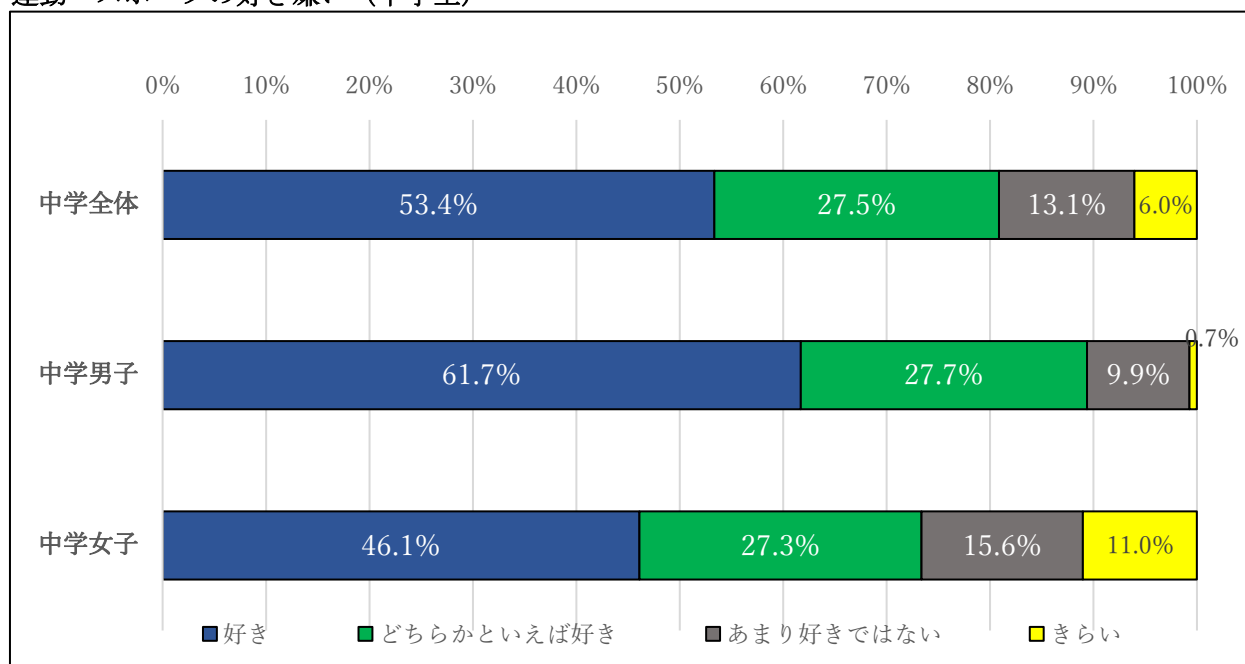
○小中：設問1 運動やスポーツをすることが好きですか。

- ・運動やスポーツが「好き」または「どちらかといえば好き」と回答している児童生徒の割合は最も高いが、小学生中学生ともに女子が男子に比べて低くなっている。
- ・女子よりも男子の方が「好き」と回答する割合が高く、また中学生よりも小学生の方が「好き」と回答する割合が高いという特徴は、前回の調査と同様の傾向である。

運動・スポーツの好き嫌い（小学生）



運動・スポーツの好き嫌い（中学生）

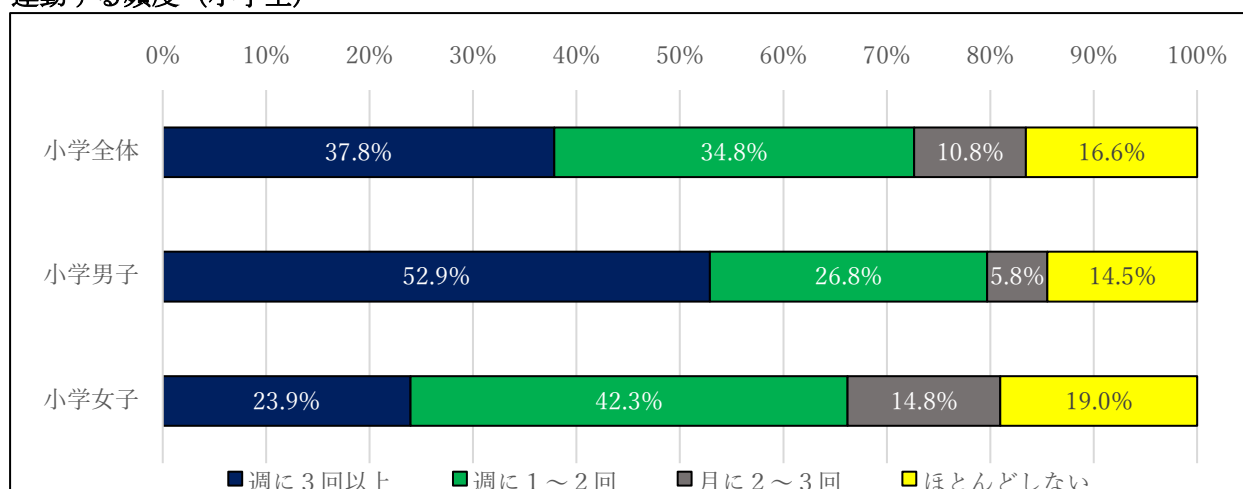


運動・スポーツの実施状況

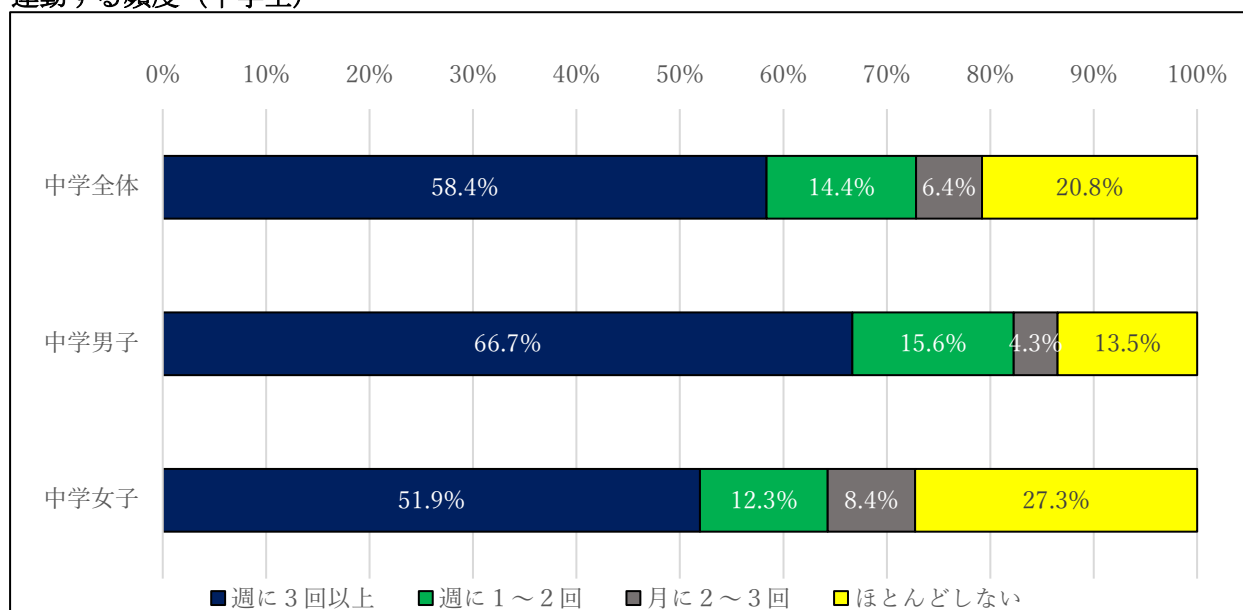
○小：設問 3 中：設問 4 運動やスポーツをどのくらいしていますか。（学校の授業は除く）

・週 3 回以上と週 1 回以上を合わせると、小学生・中学生ともに男子は 8 割が運動をしているという結果だが、女子は、小学生が 66.2%、中学生が 64.2%と男子との差が大きくなっている。また、中学生女子の「ほとんどしていない」割合が 27.3%と 3 割弱にも及んでいる。

運動する頻度（小学生）



運動する頻度（中学生）



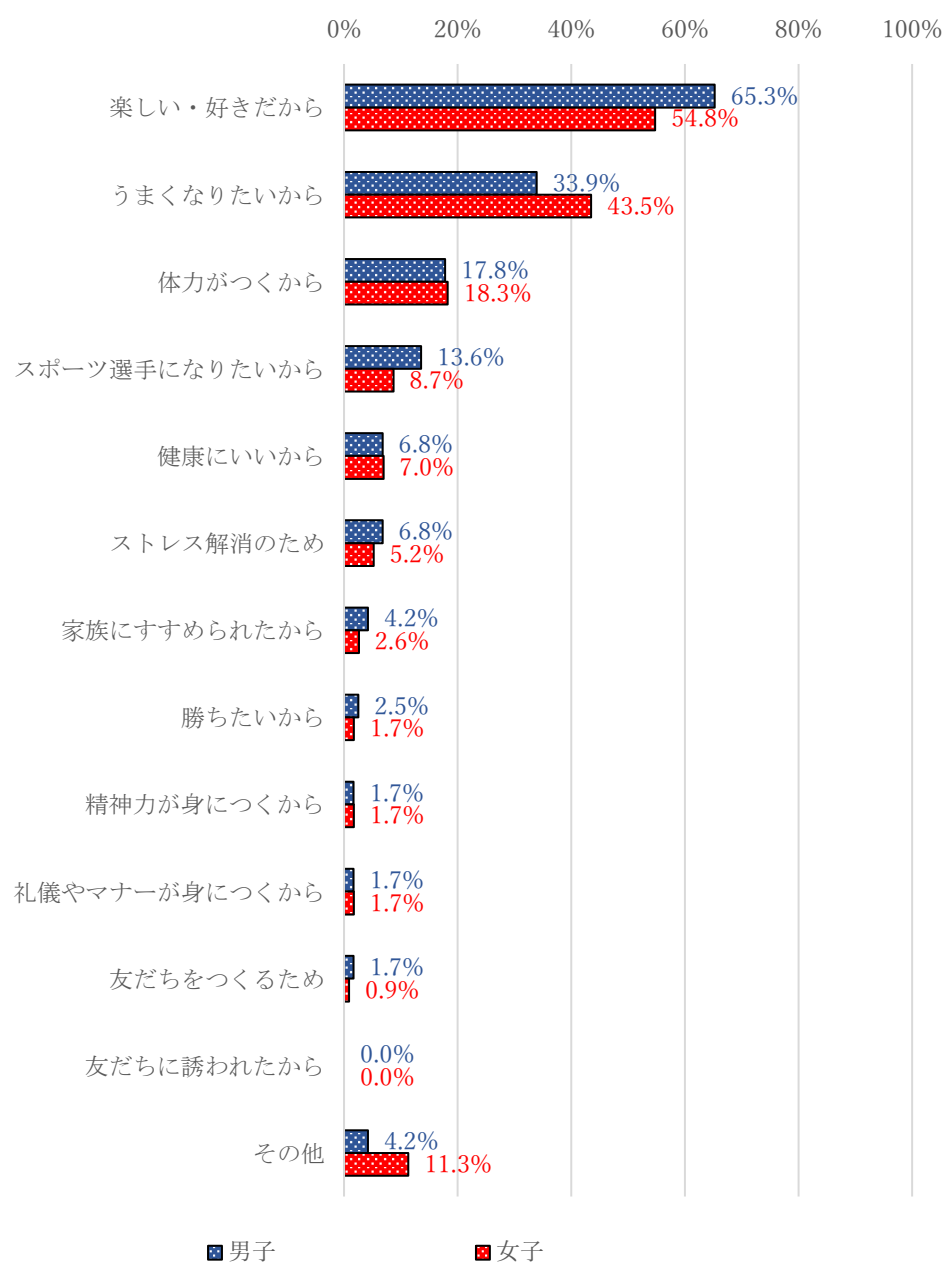
運動・スポーツに対する価値観

○小：設問 8 中：設問 9 運動やスポーツをしている理由は何ですか（2 つ以内で選択）

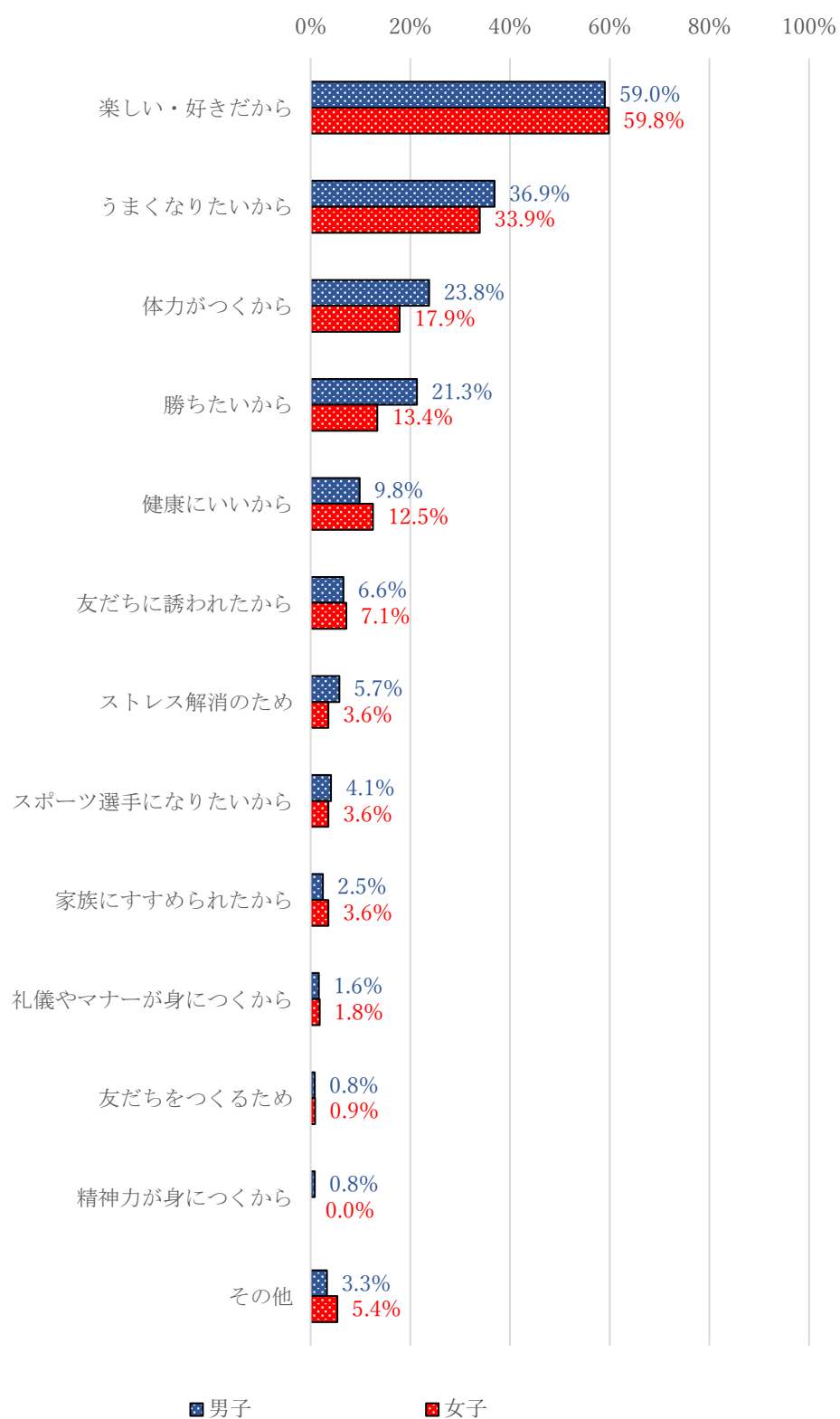
【現在運動をしている人が回答】

小学生・中学生ともに、「楽しい・好きだから」「うまくなりたいから」という理由の割合が高く、この傾向は前回と同様である。男女で差がみられるのは、小学生では、「うまくなりたい」と思うのは男子よりも女子のほうが多く、中学生では「勝ちたい」と思う割合が女子よりも男子が高くなっている。

運動やスポーツをしている理由 小学男女別



運動やスポーツをしている理由 中学男女別



○小：設問 3-A 中：設問 5 運動やスポーツをしない理由は何ですか（2 つ以内の選択）

【「現在ほとんど運動しない」人が回答】

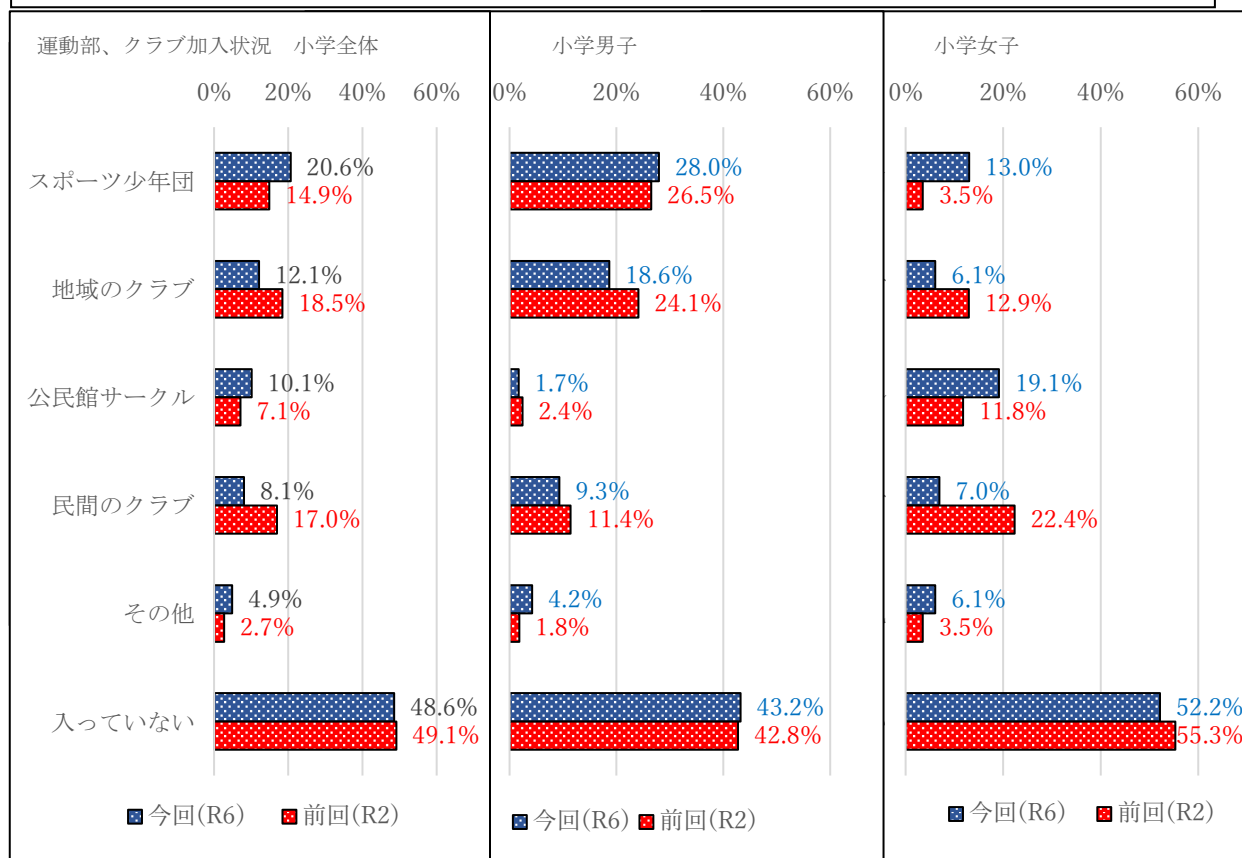
運動をしていない人のうち、その理由として「苦手だから」という回答が多い傾向は、前回調査と同様である。しかし、前回の上位項目に上がっていない、「他にやりたいことがある」割合が増えている。

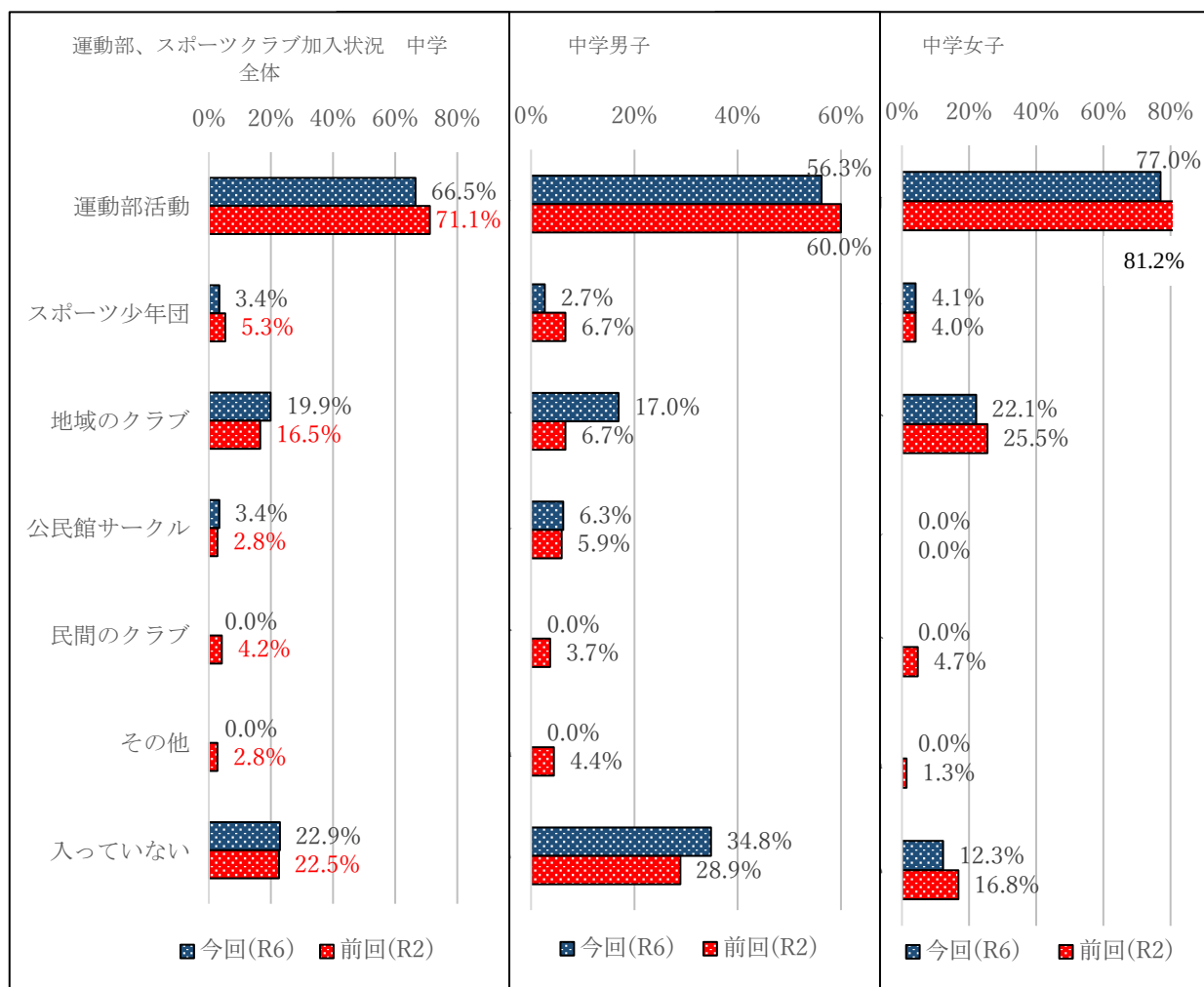
今回(R6)	小学全体	小学男子	小学女子	中学全体	中学男子	中学女子
	n=18	n=9	n=12	n=24	n=9	n=14
1 位	苦手だから	きっかけがないから	苦手だから	苦手だから	苦手だから	苦手だから
2 位	きっかけがないから、他にやりたいことがあるから	苦手だから	他にやりたいことがあるから	他にやりたいことがあるから	他にやりたいことがあるから	きらいだから
3 位	きらいだから	仲間がいないから	きらいだから	きらいだから	勉強や習い事で忙しいから、場所がないから	勉強や習い事で忙しいから

運動部やスポーツクラブの加入状況

○小・中：設問 10 運動やスポーツのクラブやチームなどに入っていますか。（複数回答可）

スポーツ少年団所属が前回の 14.9%と比べると、今回は 20.6%と増加がみられるが、ほぼ半数が「入っていない」という傾向は変わっていない。一方で、地域のクラブや民間クラブへの加入は、前回よりも減少している。中学生は、運動部活動加入率は前回よりも減少しているものの、地域のクラブ等への加入率よりも突出して多い傾向は前回と同様である。女子は部活動に加入している割合が男子に比べて高く、男子は地域のクラブに入っている割合が女子よりも高い。





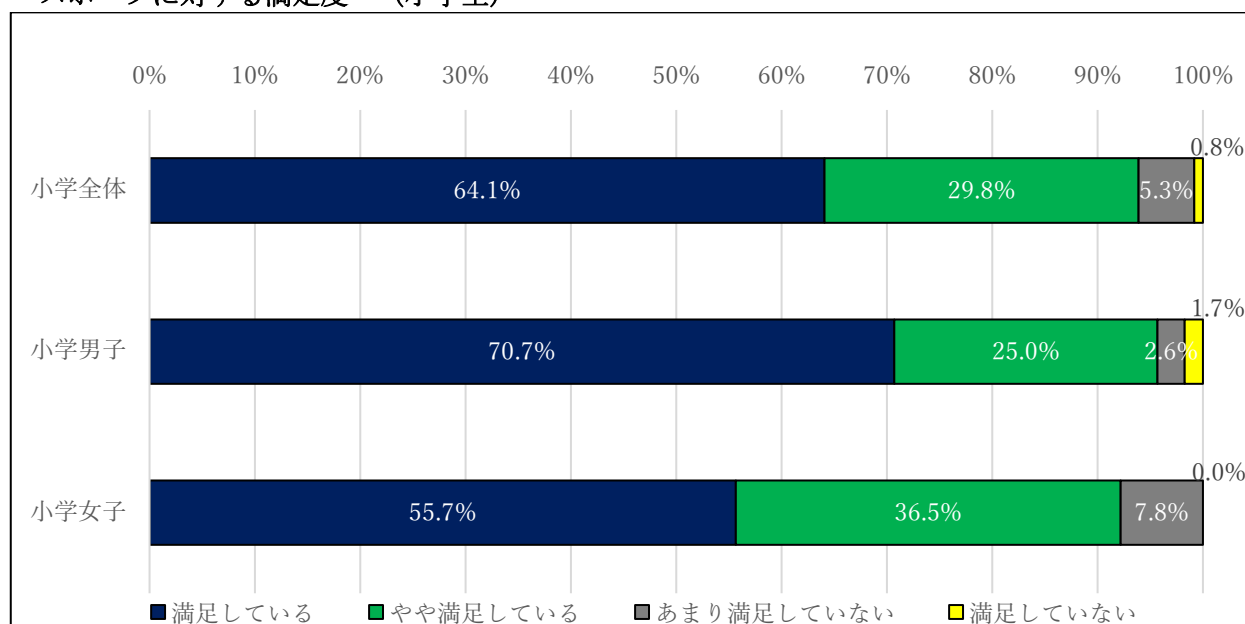
運動・スポーツの満足感

○小：設問 9 中：設問 11 自分がしている運動・スポーツに満足していますか。

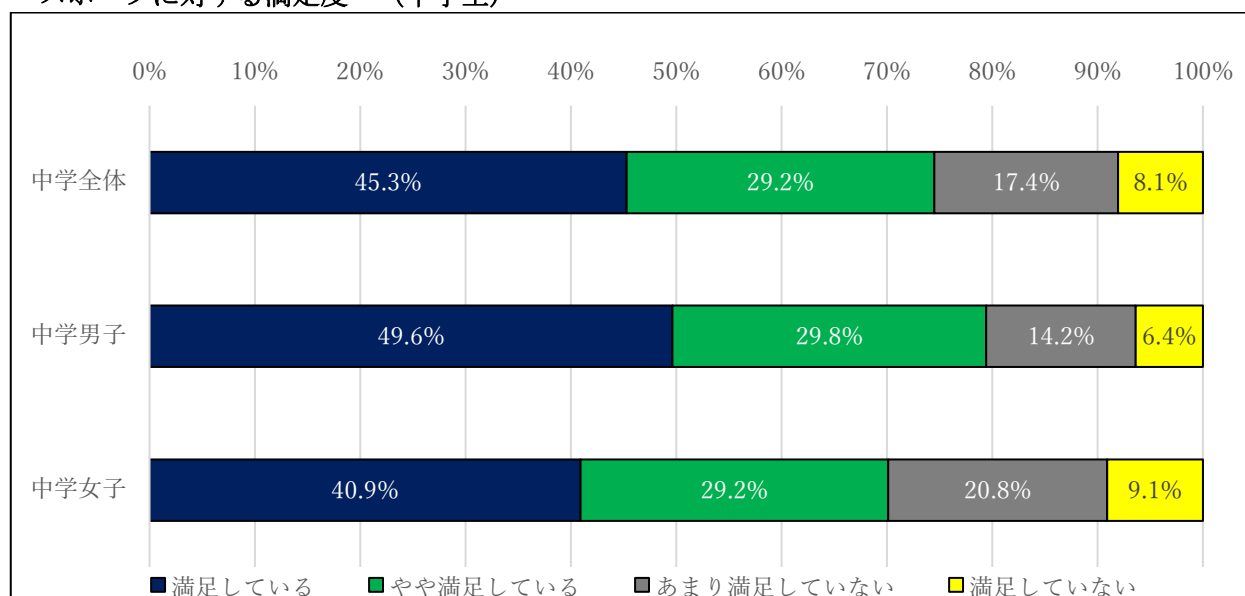
【現在運動をしている人が回答】

自分がしている運動・スポーツに満足している人は、「満足している」と「やや満足している」を合わせた割合が、小学生 93.9%は高い水準であったが中学生 74.5%と小中学生で差が見られる。中学女子 70.1%は特に少ない割合で、中学女子のスポーツ離れが見られる。

スポーツに対する満足度 (小学生)

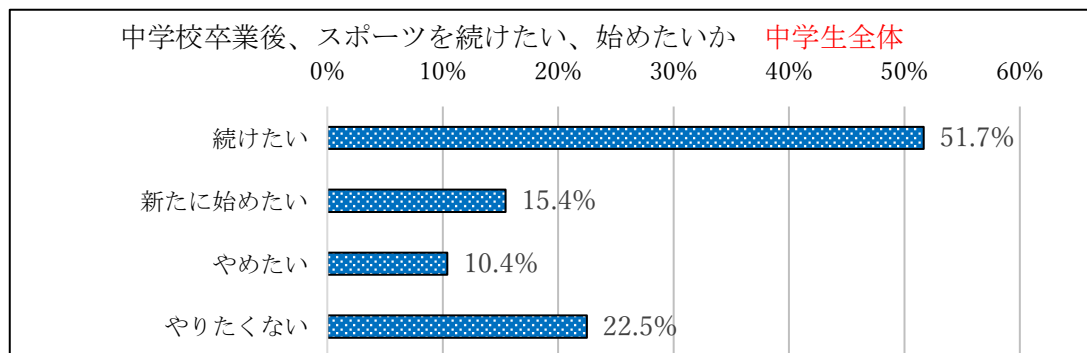
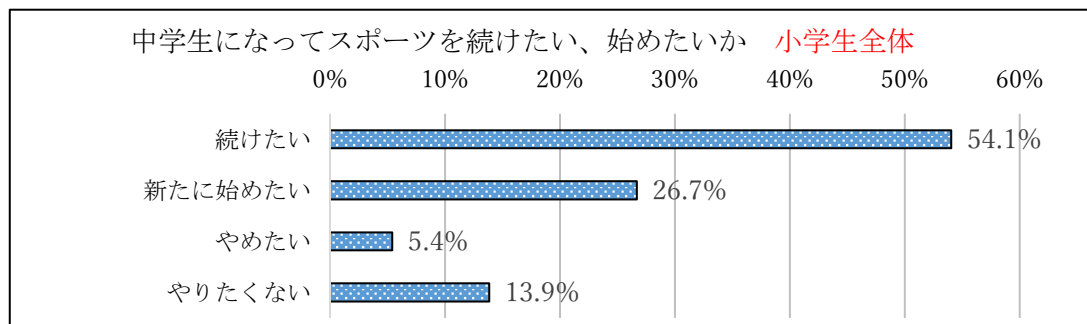


スポーツに対する満足度 (中学生)



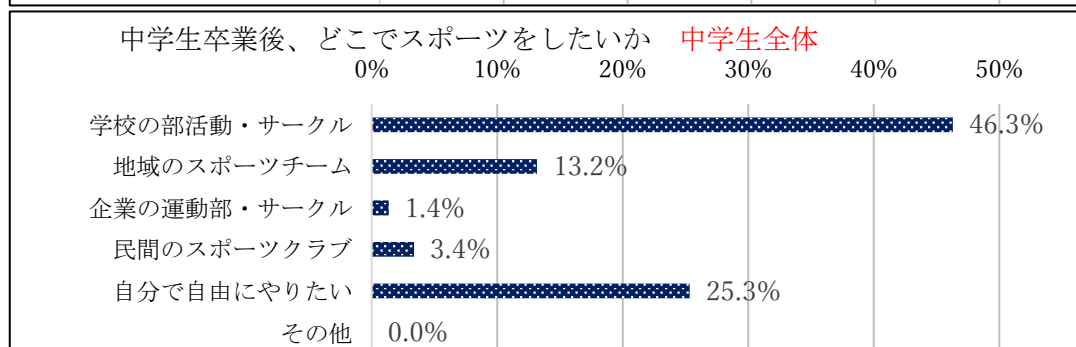
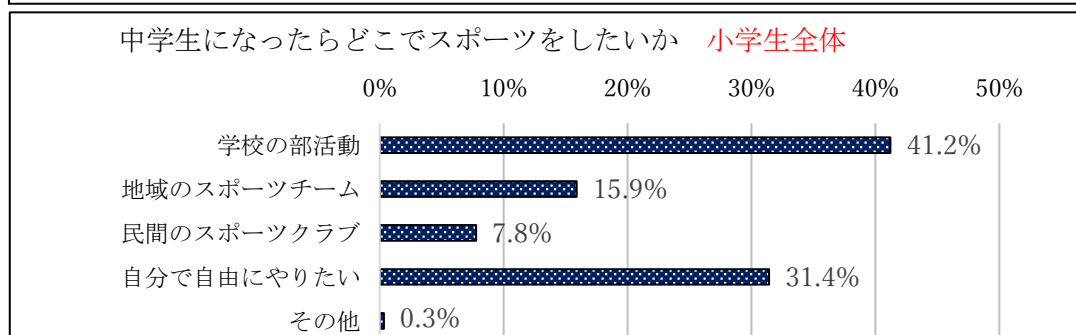
○小：設問 11 中：設問 13 中学生になって（中学を卒業して）、運動やスポーツを続けたい、または、新たに始めたいと思いますか。

小学生中学生ともに、運動・スポーツを続けたいと考える児童生徒が半数以上おり、小学生では、「続けたい」「新たに始めたい」を合わせると 80.8%と非常に高い割合となっている。一方、中学生の卒業後、運動・スポーツをやりたくないとする割合が 22.5%と 2 割以上いることも小学生との違いとなっている。



○小：設問 13 中：設問 15 中学生になって（中学を卒業して）、どこで運動やスポーツをやってみたいですか。

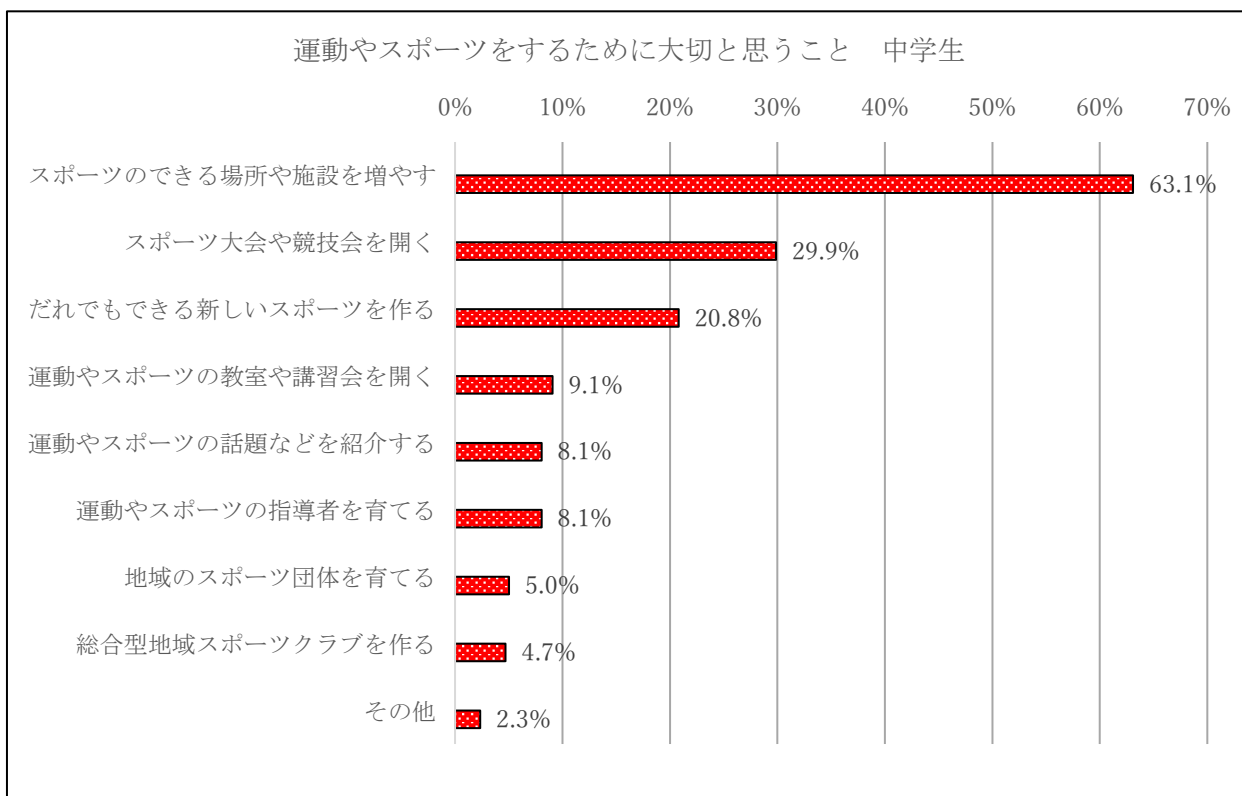
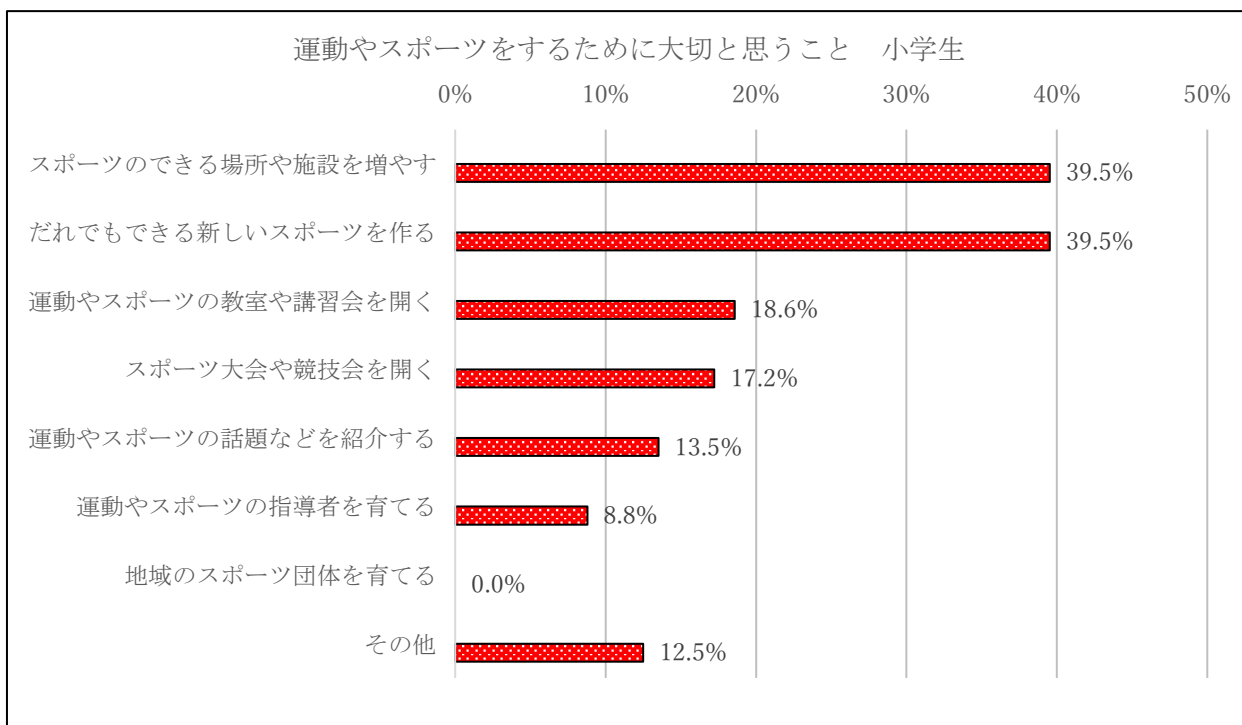
「学校部活動」が、小学生 41.2%、中学生 46.3%と小中ともに最も多く、次いで、「自分で自由にやりたい」が、小学生 31.4%、中学生 25.3%となっている。部活動の地域展開がどの程度子供たちに理解できているかは不明だが、学校での部活動が意識の中にある実態が見える。



スポーツ振興に関する意識

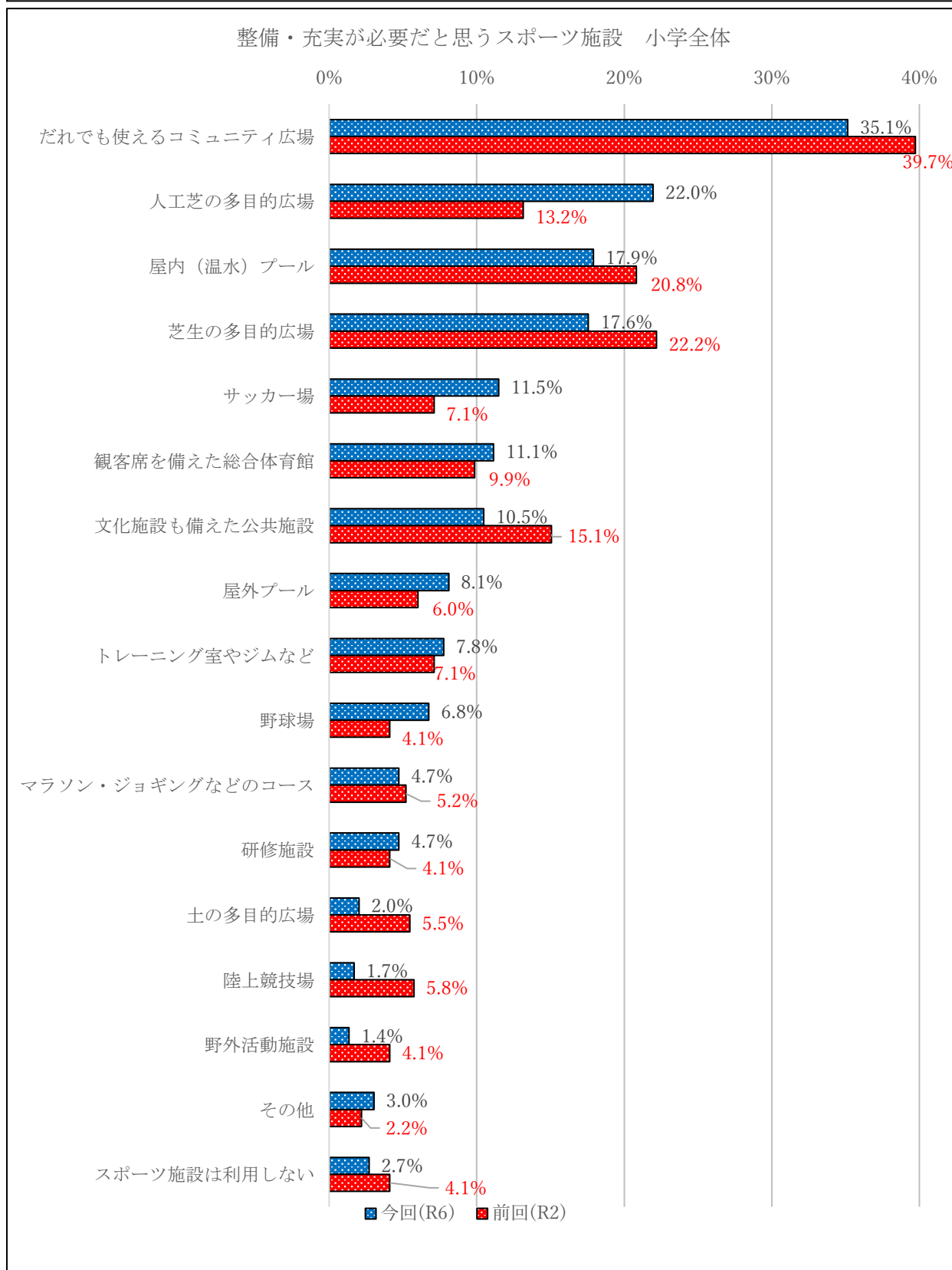
○小：設問 14 中：設問 16 運動やスポーツを楽しむために大切なことは何だと思いますか。
(2 つ以内で選択)

「施設の拡充」と回答した小学生は 39.5%、中学生は 63.1%と最も高い割合であった。小学生においては、「だれでもできる新しい運動・スポーツ」と回答した割合が「施設の拡充」と同率であったが、中学生では、「スポーツ大会・競技会の開催」が上位を占めている。他の回答項目については、前回の調査と同様の傾向がみられる。

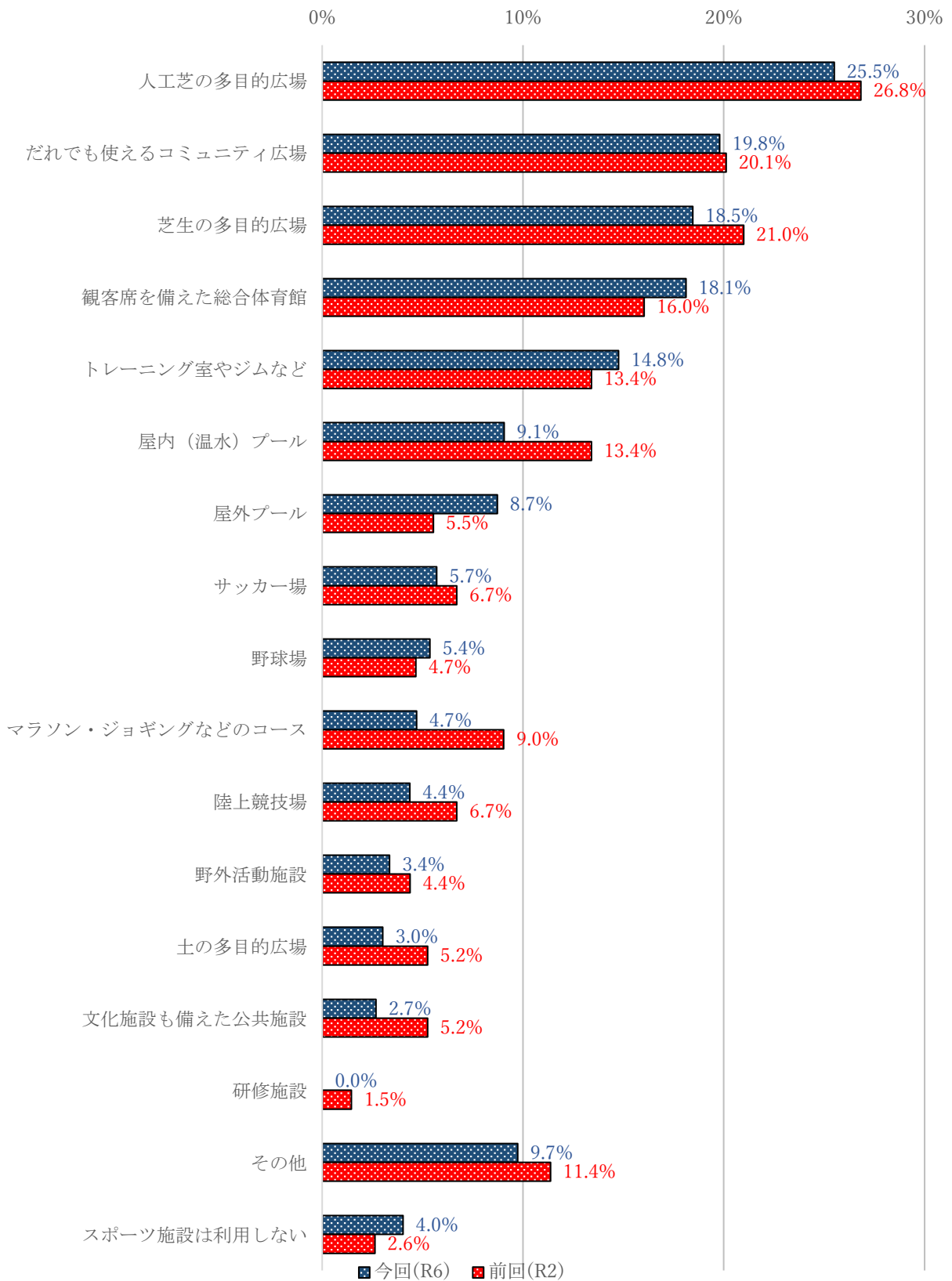


○小:設問 15 中:設問 17 どのようなスポーツ施設を整備・充実すればよいと思いますか。
(2 つ以内で選択)

整備・充実すべき施設としては、小学生は前回よりも減少傾向にあるが、今回も「コミュニティ広場」が最も高い割合を示した。中学生は、「人工芝の多目的広場」が最も多く、小学生の希望の伸び率も高かった。小学生は、サッカー場の設置を望む割合が増加しているが、中学生では逆に減少している。



整備・充実が必要だと思うスポーツ施設 中学全体

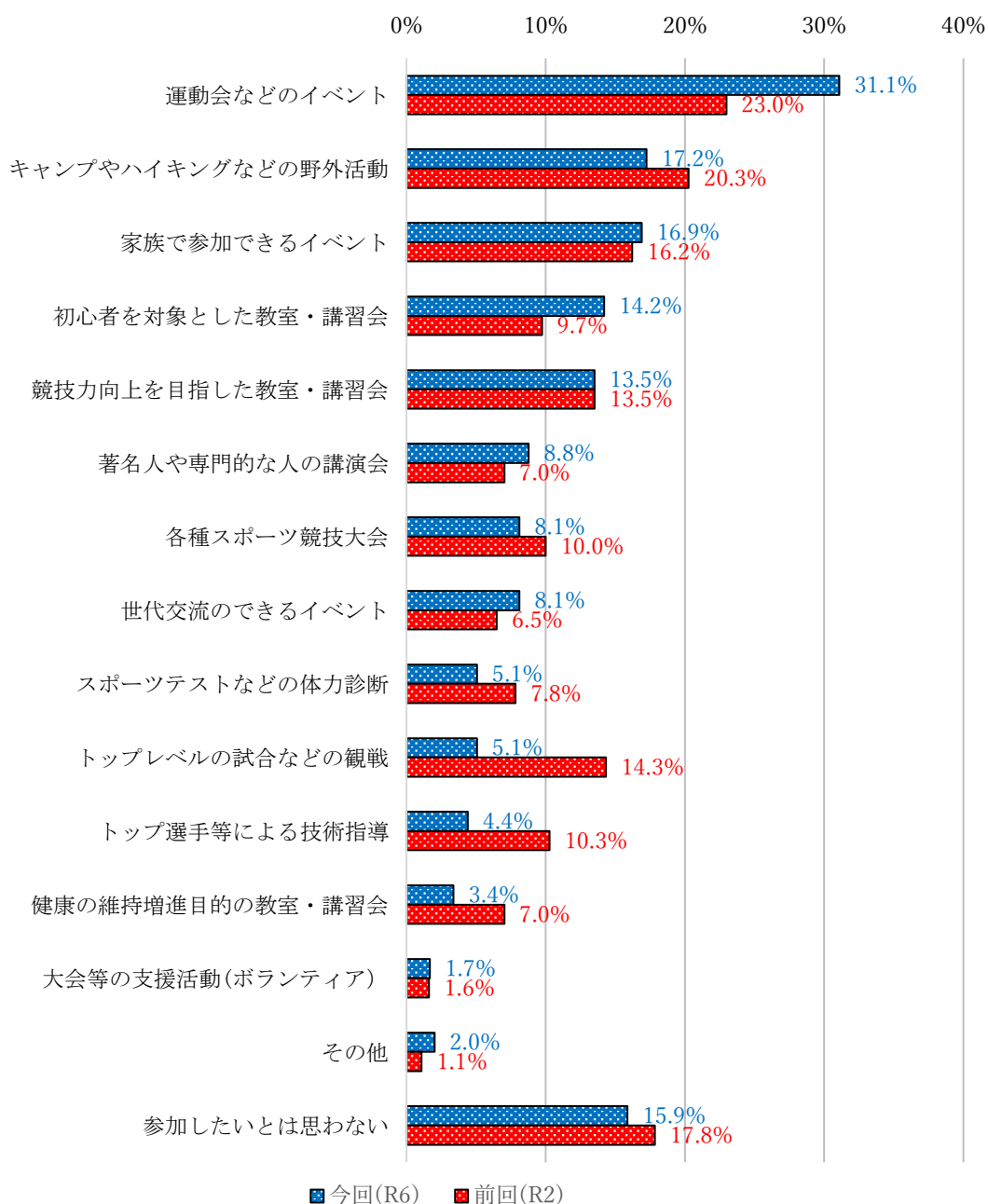


○小：設問 16 中：設問 18 どのようなスポーツ行事に参加したいですか。
(2 つ以内で選択)

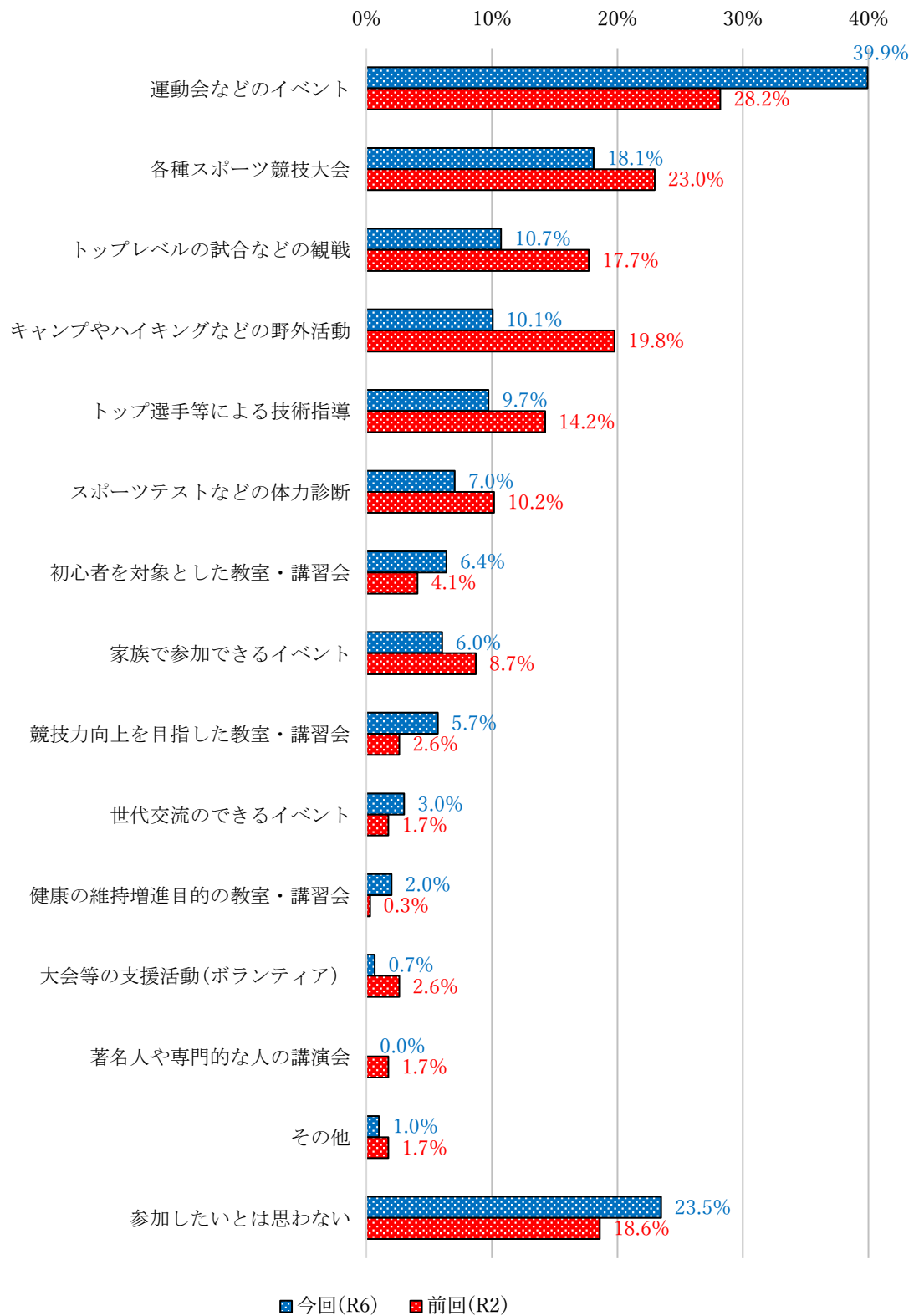
小学生では、前回と同様に「運動会などのイベント」の割合が高く、「野外活動」と「家族で参加できるイベント」となっている。この「運動会」は学校の運動会をイメージしていると考えられる。また、「初心者を対象としたスポーツ教室・講習会の割合」が前回より 4.5%多くなり、「トッププレイヤーによる試合などの観戦や技術指導」は減少傾向にある。

中学生においても、「運動会などのイベント」の割合が高く、みんなで楽しめるイベントを希望している割合は前回と同様に増加傾向にある。また、「トッププレイヤーによる試合などの観戦や技術指導」は減少傾向にあるものの、前回と同様に上位項目となっている。

参加したいスポーツ行事 小学全体

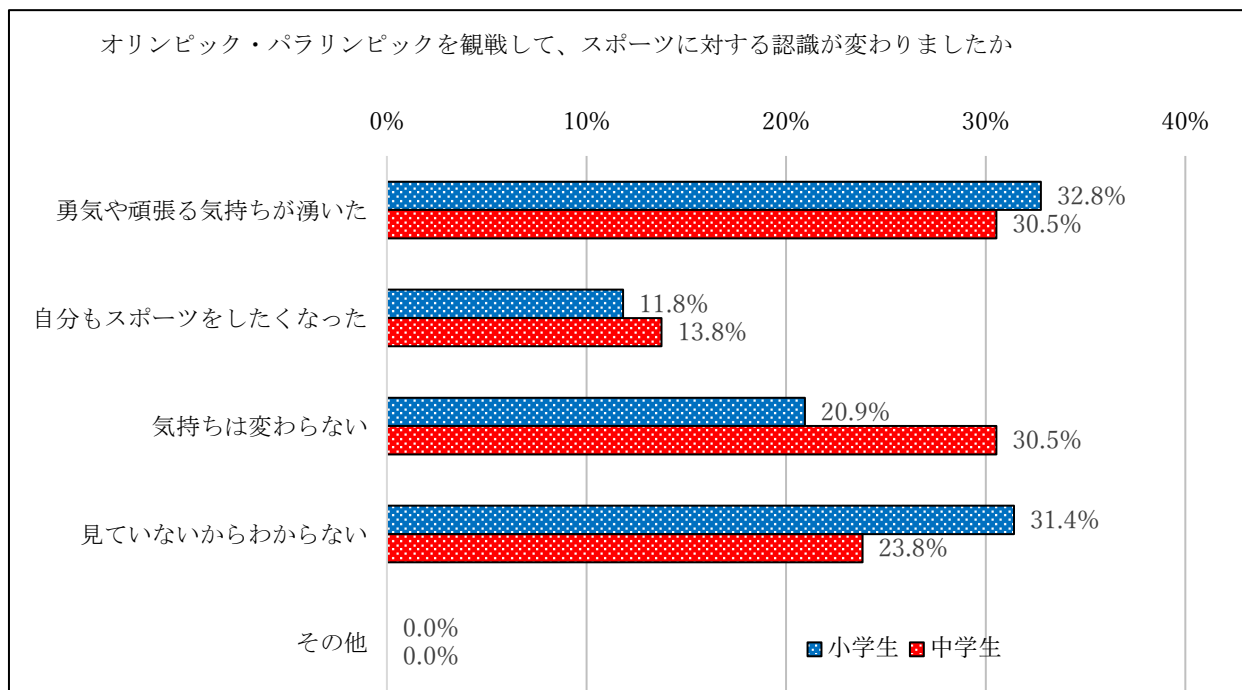


参加したいスポーツ行事 中学全体



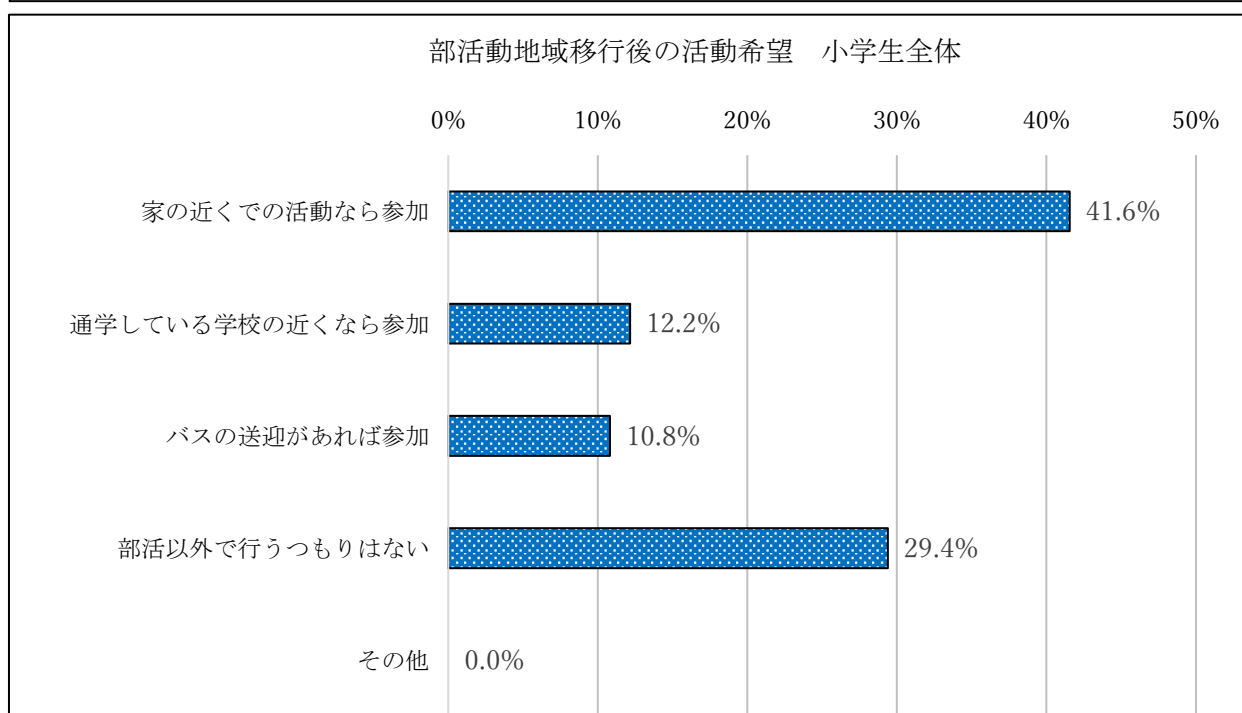
○小：設問 19 中：設問 22 パリオリンピック・パラリンピックが開催されましたが、競技や競技者を見て、スポーツに対する考えや自分の考えは変わりましたか。

「勇気や頑張る気持ちが湧いた」が、小学生 32.8%、中学生 30.5%と多く、スポーツの力を示す結果となっている。一方、中学生で「気持ちが変わらない」30.5%、小学生で、「見ていないからわからない」31.4%と関心の薄さもうかがえる。



○小：設問 20 赤磐市では、中学校部活動を地域に移行するように検討していますが、今、中学校部活動がなくなったら、中学校に進学したとき、地域のスポーツ活動に参加しますか。

「家の近くでの活動なら参加する」が、41.6%で最も多く、次いで、「部活動以外で行うつもりはない」が 29.4%となっている。「家の近く」と、活動場所が選択要素になっていることを考えると、広域の地域クラブは課題があると同時に、部活動中心の考えがあることも見逃せない項目である。



(2) 体育施設一覧

○山陽地域

施設名	山陽ふれあい公園	桜が丘運動公園
開設年月 所在地 敷地面積 建物延面積 建物構造 施設内容	平成 5 年 4 月 正崎 1368 178,763 m ² 6,706 m ² 鉄筋コンクリート造 2 階建 ○メインアリーナ バドミントンコート 10 面分 固定観客席 544 席 ○フィットネスアリーナ バドミントンコート 3 面分 ○トレーニングルーム ○屋内プール 一般プール(25m×6 コース) 幼児プール(20m×3.5m) ○フィットネスコート(テニス) 4 面(砂入り人工芝)、照明有 ○多目的広場 200mトラック分、照明有 [サッカー、ホッケー他] ○研修室、会議室、本部室、幼児室 ○ちびっこ広場、冒険の森 ○駐車場:424 台	昭和 58 年 5 月 桜が丘西 9-27 52,403 m ² ○野球場 中堅 122m、両翼 91m、内野黒土、外野芝生、バックネット、バックスクリーン(スコアボード)、ダッグアウト、照明有 ○運動場 300mトラック分 [ソフトボール、サッカー他] ○テニスコート 5 面(クレー)、練習用コート半面、会員制 ○駐車場:180 台

施設名	グラウンド・ゴルフ場	西山グラウンド
開設年月 所在地 敷地面積 建物延面積 建物構造 施設内容	平成 19 年 5 月 中島 1022-3 19,976 m ² 137 m ² 木造平屋一部鉄骨造 ○芝コース 2 面(16 ホール) ○クレーコース 2 面(16 ホール) ○クラブハウス、東屋 ○広場(駐車可 80 台) ○駐車場:70 台	昭和 54 年 7 月 西中 215 9,016 m ² ○多目的グラウンド 中堅 100m、両翼 75m [少年軟式野球、グラウンド・ゴルフ他] ○駐車場:50 台

○赤坂地域

施設名	赤坂ファミリー公園	赤坂体育センター
開設年月	昭和 58 年 4 月	昭和 60 年 4 月
所 在 地	今井 67	町荊田 492
敷地面積	67,583 m ²	2,426 m ²
建物延面積	298 m ²	1,374 m ²
建物構造	鉄骨造 2 階建(管理棟センター)	鉄筋コンクリート造一部 2 階建
施設内容	○多目的広場 中堅 115m、両翼 90m、内野黒土、バックネット、ベンチ、照明有 ○テニスコート 4 面(砂入り人工芝)、照明有 ○ふれあい広場 150mトラック分 [グラウンド・ゴルフ、ゲートボール他] ○駐車場:70 台	○メインアリーナ バドミントンコート 3 面分 ○サブアリーナ 柔道場 1 面分 ○会議室 ○駐車場:10 台

○熊山地域

施設名	熊山運動公園	熊山武道館
開設年月	平成 8 年 6 月	平成 9 年 7 月
所 在 地	沢原 57	沢原 356-1
敷地面積	40,800 m ²	3,300 m ²
建物延面積		1,970 m ²
建物構造		鉄筋コンクリート造 2 階建
施設内容	○野球場 中堅 123m、両翼 87m、内野黒土、ベンチ ○テニスコート 5 面(砂入り人工芝)、照明有 ○多目的広場(105m×73m) 人工芝(ウォーターベース) [ホッケー、フットサル他] ○駐車場:119 台	○柔道場 2 面分 ○剣道場 2 面分 ○駐車場:44 台

○吉井地域

施設名	吉井B&G海洋センター	B&G隣接施設
開設年月	平成 4 年 6 月	平成 8 年 4 月
所 在 地	草生 1	草生 958-1
敷地面積	10,773 m ²	15,000 m ²
建物延面積	2,760 m ²	
建物構造	鉄筋コンクリート造 2 階建	
施設内容	○メインアリーナ バドミントンコート 3 面分 ○サブアリーナ 柔道場 1 面分 トレーニングルーム ○上屋付プール 一般プール(25m×6 コース) 幼児プール ○ミーティングルーム ○駐車場:90 台	○草生多目的広場(100m×67m) [ソフトボール、サッカー他] ○草生テニスコート 5 面(砂入り人工芝)、照明有 ○吉井グラウンド 中堅 110m、両翼 90m ベンチ、照明有 ○駐車場:100 台

施設名	吉井武道館	
開設年月	昭和 61 年 8 月	
所 在 地	周匝 136-1	
敷地面積	5,589 m ²	
建物延面積	499 m ²	
建物構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨	
施設内容	○柔道場 1 面 ○剣道場 1 面 ○駐車場:150 台	

(3) 赤磐市スポーツ推進計画策定委員名簿

(五十音順)

氏 名	所 属
石原 英司	赤磐市スポーツ協会 会長
大崎 陽二	赤磐市スポーツ推進委員会 委員長
久山 崇文	赤磐市スポーツ少年団 本部長
渡邊 裕	岡山県中学校体育連盟赤磐・加賀支部 支部長
大坂 伸一	赤磐市小学校体育連盟 会長
小堀 浩志	IPU・環太平洋大学 スポーツビジネスコース長
田上 純子	学識経験者

赤磐市スポーツ推進計画

発行年月
発行
編集

令和 7 年 月
赤磐市教育委員会
赤磐市教育委員会社会教育課
〒709-0816 岡山県赤磐市下市 3 3 7 番地
TEL 086-955-0738 FAX 086-955-1163
市ホームページ <http://www.city.akaiwa.lg.jp/>

